

令和5年度（2023年度）

事業報告書

自 令和5年4月1日

至 令和6年3月31日

I. 法人の概要	3
II. 実施事業と成果	13
1. 森ノ宮医療大学	13
2. 森ノ宮医療学園専門学校.....	62
3. 森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール.....	72
4. 関連事業部門.....	75
III. 財務の概要	82

学校法人森ノ宮医療学園
大阪市東成区中本4丁目1番8号

本報告書は、平成 21 年 2 月 17 日付日本公認会計士協会「学校法人における事業報告書の記載例について」を参考に構成しています。

I. 法人の概要

1. 建学の精神

臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた医療人を育成する

2. 学校法人の沿革

年	月	事項
1973（昭和48）年	3月	厚生省より鍼灸師養成施設の認可を受ける
	4月	大阪鍼灸専門学校開校（大阪市東成区）
1977（昭和52）年	4月	学校法人「森ノ宮学園」となり、あわせて専修学校医療専門課程となる
1982（昭和57）年	4月	附属診療所、附属鍼灸施術所落成
1985（昭和60）年	4月	卒後教育雑誌「鍼灸 OSAKA」創刊
1988（昭和63）年	5月	鍼灸師養成に関わる法律により修業年限3年となる
	11月	中国、大連市中医医院と学術研究提携を結ぶ
1991（平成3）年	7月	米国、Santa Barbara College of Oriental Medicine と教育提携を結ぶ
1992（平成4）年	7月	中国、南京中医薬大学と学術研究提携を結ぶ
1995（平成7）年	3月	この年の卒業生から文部省告示による専門士（医療専門課程）の称号を授与
1996（平成8）年	6月	中国江蘇省陰市中医院と交流開始
2000（平成12）年	4月	柔道整復学科開設、法人名を学校法人森ノ宮医療学園、学校名を森ノ宮医療学園専門学校と改称
2001（平成13）年	1月	森ノ宮医療学園専門学校本校舎増改築工事完成、同校3階に「はりきゅうミュージアム」開設
2002（平成14）年	1月	「はりきゅうミュージアム」にて代田文誌特別展開催
	4月	森ノ宮医療学園専門学校緑橋校舎増設
2003（平成15）年	3月	柔道整復学科第1期生卒業
		創立30周年記念式典 校歌「みどりの風」制定
	4月	全日制アドバンスコース開講
	7月	アネックス校舎（第1期）完成
2004（平成16）年	3月	中国江蘇省江陰市中医院と学術・教育協定締結
2005（平成17）年	2月	医療法人淳良会関目病院と教育提携を結ぶ
2007（平成19）年	4月	森ノ宮医療大学開学（大阪市住之江区）
2008（平成20）年	2月	第1回おおさか優良緑化賞・大阪府知事賞受賞
	11月	森ノ宮医療大学コスモキャンパス第2校地取得

2010 (平成22) 年	1月	森ノ宮医療学園附属みどりの風クリニック、みどりの風鍼灸院開院
	3月	森ノ宮医療学園アネックス校舎完成
	4月	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立急性期・総合医療センターと括連携協定締結
2011 (平成23) 年	6月	森ノ宮医療大学メディカフェ (学生食堂) オープン
	4月	森ノ宮医療大学看護学科設置 西棟 (ウエストポート) 竣工 森ノ宮医療大学大学院修士課程保健医療学研究科設置
2012 (平成24) 年	2月	森ノ宮医療大学鍼灸学科スポーツ特修コース設置認可 森ノ宮医療大学 公益財団法人日本高等教育評価機構による機関別認証評価受審の結果、「適合」との判定 森ノ宮医療学園専門学校 文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認定
2013 (平成25) 年	3月	森ノ宮医療大学鍼灸学科スポーツ特修コース設置認可
2014 (平成26) 年	1月	大阪市住之江区と包括連携協定締結
	6月	大阪府高槻市教育委員会と包括連携協定締結
	11月	大阪府吹田市教育委員会と包括連携協定締結
2015 (平成27) 年	2月	相愛大学と包括連携協定締結
2016 (平成28) 年	3月	森ノ宮医療学園専門学校が大阪社会体育専門学校と包括連携協定締結
	4月	森ノ宮医療大学に助産学専攻を開設。保健医療学部臨床検査学科、作業療法学科を開設
	5月	森ノ宮医療大学新棟 (キャナルポート) 竣工、新体育館、新図書館併設
	6月	森ノ宮医療大学講堂 (コスモホール) 竣工
	9月	森ノ宮医療学園専門学校がフロリダ・カレッジ・オブ・インテグレイティブメディスン (FCIM) と姉妹校提携
	11月	森ノ宮医療大学開設10周年記念式典挙行
2017 (平成29) 年	12月	森ノ宮医療大学コスモキャンパス西側隣接地の校地 (大学設置基準上の空地) 購入
	4月	森ノ宮医療大学 禁煙宣言
	11月	森ノ宮医療学園 京都施術所 (ERP 下鴨南治療院) 開業
2018 (平成30) 年	12月	森ノ宮医療大学 西校地南側を運動施設 (グリーンスクエア) に整備
	1月	森ノ宮医療大学 公益財団法人日本生命済生会付属日生病院 (現: 日本生命病院) と相互連携協定締結
	3月	森ノ宮医療大学 オーストラリア、カーティン大学 (Curtin University) と連携協定締結
	4月	森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科医療科学専攻 (博士後期課程) 開設
	7月	森ノ宮医療学園専門学校が大阪市東成区と包括連携協定締結
2019 (平成31) 年	2月	森ノ宮医療学園ランゲージスクールが大阪府から各種学校として認可される。
	4月	森ノ宮医療学園ランゲージスクール開校

2020 (令和2) 年	4月	森ノ宮医療大学 保健医療学部放射線学科を開設、大学院保健医療学研究科看護学専攻 (修士課程) を設置、開設 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床検査学科細胞検査士課程開設
	9月	森ノ宮医療大学 社会医療法人愛仁会と相互連携協定締結
	10月	森ノ宮医療大学 JCHO 大阪みなと中央病院と相互連携協定締結
	11月	森ノ宮医療学園 イカリソース株式会社と包括連携協定締結
	12月	森ノ宮医療大学 JCHO 大阪病院と相互連携協定締結
2021 (令和3) 年	2月	森ノ宮医療大学 チュニジア Tunis El Manar 大学 (チュニスエルマナール大学) と連携協定締結
	6月	森ノ宮医療学園 西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部大阪支社と相互連携協定締結
	8月	森ノ宮医療大学 NTT ドコモレッドハリケーンズ大阪と相互連携協定締結
2022 (令和4) 年	3月	森ノ宮医療大学パスレルポート (部室棟) 竣工
	4月	森ノ宮医療大学保健医療学部を看護学部、総合リハビリテーション学部、医療技術学部に再編 (2022 年度入学生より) 森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科 看護学専攻 (博士後期課程) 開設、看護学専攻 (博士前期課程※) N Pコース開設 ※修士課程から改称
		森ノ宮医療学園 西尾レントオール株式会社と相互連携協定締結
	5月	森ノ宮医療大学 医療法人聖和錦秀会阪和いずみ病院と相互連携協定締結
	9月	森ノ宮医療学園 大阪市と包括連携協定締結
2023 (令和5) 年	11月	森ノ宮医療大学附属クリニック「大阪ベイクリニック」開院
	8月	独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターと相互連携協定を締結
	10月	独立行政法人 労働者健康安全機構 大阪労災病院と相互連携協定を締結
2024 (令和6) 年	2月	森ノ宮医療大学 AoiPort (葵棟) 校舎落成
	4月	森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科 開設

3. 設置する学校・学部・学科等

法人の名称		学校法人森ノ宮医療学園		事務所の所在地		大阪府大阪市東成区 中本4丁目1番8号	
設置する学校	学校名	学部・学科名等	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	備考
	森ノ宮 医療大学 ※令和4年度 に学部再編	大学院保健医療学研究科 保健医療学専攻（修士課程）	2	6	0	12	開設年度 平成23年度
		大学院保健医療学研究科 看護学専攻（修士課程／博士前期課程）	2	9	0	15	開設年度 令和2年度
		大学院保健医療学研究科 医療科学専攻（博士後期課程）	3	2	0	4	開設年度 平成30年度
		大学院保健医療学研究科 看護学専攻（博士後期課程）	3	2	0	4	開設年度 令和4年度
		保健医療学部／ 医療技術学部 鍼灸学科	4	60	0	240	開設年度 平成19年度
		保健医療学部／ 総合リハビリテーション学部 理学療法学科	4	70	0	280	
		保健医療学部／ 看護学部 看護学科	4	90	0	360	開設年度 平成23年度
		保健医療学部／ 医療技術学部 臨床検査学科	4	70	0	280	開設年度 平成28年度
		保健医療学部／ 総合リハビリテーション学部 作業療法学科	4	40	0	160	開設年度 平成28年度
		保健医療学部／ 医療技術学部 臨床工学科	4	60	0	240	開設年度 平成30年度
保健医療学部／ 医療技術学部 診療放射線学科		4	80	0	320	開設年度 令和2年度	

	助産学専攻科	1	10	0	10	開設年度 平成28年度
森ノ宮医療 学園専門学校	医療専門課程鍼灸学科	3	120	0	360	開設年度 昭和48年度
	医療専門課程柔道整復学科	3	90	0	270	開設年度 平成12年度
森ノ宮医療学園 ウェルランゲージ スクール	日本語学科進学1年コース	1	20	0	20	開設年度 平成31年度
	日本語学科進学1年6か月コース	1.5	90	0	90	
	日本語学科進学2年コース	2	20	0	40	
	介護福祉学科	2	80	0	160	開設年度 令和3年度

4. 施設等の状況

学校名（所在地）	校地現有面積	校舎現有面積	備考
森ノ宮医療大学・大学院 （大阪市住之江区南港北1丁目39番1号）	㎡ 32,936.65	㎡ 7,193.15 （東棟）	【令和4年度】 西棟に附属クリニック増 築（297.62㎡） 部室棟新築（234.16 ㎡）
		603.63 （食堂棟）	
		4,891.48 （西棟） （附属クリニック）	
		10,939.69 （南棟）	
		30.64 （スポーツ施設管 理棟）	
		5,422.25 （桜棟）	
		234.16 （部室棟）	
森ノ宮医療大学 計	32,936.65	29,315	
森ノ宮医療学園専門学校 （大阪市東成区中本4丁目1番8号）	1,560.22	5,253.67 （本校舎）	
森ノ宮医療学園専門学校 （大阪市東成区中本3丁目15番11号）	530.56	936.74 （緑橋校舎）	
森ノ宮医療学園専門学校 （大阪市東成区中本2丁目5番41号）	1,329.40	1,454.19 （アネックス校舎）	
森ノ宮医療学園専門学校 計	3,420.18	7,644.60	
森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール （大阪市住之江区南港北1丁目28番9号）		673.31 （日本語学科棟）	
		1,070.90 （介護福祉学科棟）	
森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール		1,744.21	
総合計	36,176.83	38,703.81	

（2023年5月1日現在）

5. 役員の概要

(2023年4月1日現在)

・定員数：理事8～14名、監事2～4名 ・現員数：理事8名、監事2名

役職	氏名	役員就任年月日	寄附行為上の選任区分	備考
理事長	清水尚道	平成 22 年 11 月	7-1-1	森ノ宮医療学園専門学校校長
理事	青木元邦	平成 27 年 4 月	7-1-1	森ノ宮医療大学学長
理事	尾崎朋文	平成 25 年 4 月	7-1-2	
理事	安田実	平成 11 年 5 月	7-1-2	
理事	上條藤夫	令和 4 年 12 月	7-1-2	
理事	荻原俊男	平成 23 年 4 月	7-1-3	
理事	松浦成昭	平成 31 年 4 月	7-1-3	
理事	笠山宗正	平成 31 年 4 月	7-1-3	
監事	小林由幸	平成 14 年 10 月		
監事	日根野健	令和 4 年 10 月		

6. 評議員の概要

(2023年4月1日現在)

・定員数17～29名 ・現員数：22名

氏名	寄附行為上の選任区分
山下 仁	25-1-1
鍋田智之	25-1-1
松下美穂	25-1-1
吉村弥須子	25-1-1
石塚充弘	25-1-1
瀬川敏未	25-1-1
在川洋平	25-1-1
房前素徳	25-1-2
浜田 暁	25-1-2
清水尚道	25-1-2
尾崎朋文	25-1-2
河内 明	25-1-3
森 優也	25-1-3
小島賢久	25-1-3
葉山直史	25-1-3
鈴木信	25-1-3

氏名	区分
赤丸敏行	25-1-3
安田実	25-1-3
青木元邦	25-1-3
吉岡敏治	25-1-3
前川佳敬	25-1-3
上條藤夫	25-1-3

7. 教職員の概要

(2023年 5 月 1 日現在)

●大学

区分	人数
本務教員	145
本務職員	68

(学校基本調査に基づく)

●専門学校

区分	人数
本務教員	22
本務職員	17

(学校基本調査に基づく)

●森ノ宮医療学園ランゲージスクール

区分	人数
本務教員	12
本務職員	10

●法人本部、その他事業所

区分	人数
本務職員	13

8. その他

● 主な連携先

締結年月日	連携先機関等（現在の名称）	連携の種類	備考
H22.4.6	地方独立行政法人大阪病院機構大阪急性期・総合医療センター	相互連携	2017/4/1 大阪府立急性期・総合医療センターから改称
H23.7.11	医療法人協和会 千里中央病院	相互連携	
H23.12.9	医療法人錦秀会	相互連携	
H25.5.27	公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院	相互連携	
H26.1.9	大阪府住之江区	包括連携	
H26.1.15	医療法人協和会	相互連携	
H26.6.3	高槻市教育委員会	連携協定	
H26.11.19	医療法人社団有隣会 東大阪病院	相互連携	森ノ宮医療大学保健医療学部との連携
H26.11.25	吹田市教育委員会	連携協定	
H27.2.19	学校法人相愛学園 相愛大学	包括連携	
H27.3.9	社会医療法人景岳会 南大阪病院	相互連携	
H27.4.15	大阪市教育委員会	※	※ボランティアについての協定
H27.7.27	守口市教育委員会	連携協定	
H28.1.29	社会福祉法人帝塚山福祉会	相互連携	
H28.6.13	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪国際がんセンター	相互連携	2017/4/1 大阪府立成人病センターから改称
H28.8.22	学校法人常翔学園	※	※スタッフディベロップメントにおける大学間連携
H29.2.24	社会医療法人純幸会 関西メディカル病院	相互連携	
H29.10.5	株式会社かなえるリンク	相互連携	森ノ宮医療大学保健医療学部との連携
H30.1.18	放送大学	単位互換	
H30.1.26	公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院	相互連携	2018/4/30 日生病院から改称
H30.4.19	ミズノ株式会社	包括連携	高等学校への活動支援、地域への社会貢献活動 等
H30.11.1	近畿大学病院	相互連携	
H30.12.3	大阪重粒子センター	相互連携	
R2.9.7	社会医療法人愛仁会	相互連携	大学院看護学専攻 NP コース開設に向けての協力

R2.10.5	独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪みなと中央病院	相互連携	学生の救急時の受入
R2.11.30	イカリソース株式会社	相互連携	学校法人森ノ宮医療学園としての連携
R2.12.21	独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院	相互連携	
R3.6.7	西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部大阪支社	相互連携	学校法人森ノ宮医療学園としての連携大阪環状線 60 周年を契機とした鉄道事業を通じた協力
R3.8.23	NTT ドコモレッドハリケーンズ大阪	相互連携	BIODEX 利用を通じた学術データ提供、地域活性化
R4.4.26	西尾レントオール株式会社	相互連携	新型コロナウイルス職域接種の共同実施、熱中症予防に関する共同研究
R4.5.30	医療法人聖和錦秀会阪和いずみ病院	相互連携	
R4.9.16	大阪市	包括連携	市民サービスの向上と大阪市内における地域活性化の推進
R5.8.4	独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター	相互連携	
R5.10.16	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院	相互連携	

II. 実施事業と成果

1. 森ノ宮医療大学

【サマリー】

開学17周年を迎え「ブランディング」を高めるため、在校生・卒業生・保護者・教職員・地域等様々なステークホルダーの満足度を更に高めるべく、教育/研究事業の発展施策に取り組んだ。地域に根付く医療系総合大学として、教職員・附属クリニックが連携し、社会連携事業・地域貢献事業を積極的に展開した。各種センターを中心とした教職員の協働、3学部体制での教学システムの強化と充実、言語聴覚学科設置/新校舎建築準備、IPEの拡充、魅力的な包括的学修支援体制の構築、附属クリニックの充実、インクルーシブ医科学研究所の活性化、企業連携事業・大阪万博連携事業等を展開した。

(1) 実施事業の概要

① 教育研究機関としてのブランディング強化

量的拡大から質的向上へ転換しつつ、医療系総合大学として認知度向上・ブランディングを強化した。看護学部（看護学科）、総合リハビリテーション学部（理学療法学科、作業療法学科）、医療技術学部（臨床検査学科、臨床工学科、診療放射線学科、鍼灸学科）の3学部体制での円滑な運営と3学部体制を基盤とした教育、研究、社会貢献等での取り組みを更に強化し、IPEの拡充、魅力的な包括的学修支援体制の構築によるブランディングを進めた。

「教育」

教育面での質向上を目指して様々な取り組みを展開した。学部教育では「3学部体制」への移行により、各学部においてこれまで以上に専門知識・技術を習得できる教育体制を構築するとともに、学部間におけるIPE教育を充実させるため、新たにIPEセンターを立ち上げた。また学部内においては、学科混成でのカリキュラムを導入するなど積極的な取り組みを実施した。総合リハビリテーション学部では質向上とリハビリテーション分野での競争力アップを目指して、言語聴覚（ST）学科設置に向けた新棟の建築や最新機器の導入などハード面での強化を進行させ、カリキュラムなどソフト面での強化と合わせて学部としての教育の魅力の増強を図った。

大学院教育では、保健医療学研究科に4つの専攻（保健医療学専攻〔修士課程〕、医療科学専攻〔博士後期課程〕、看護学専攻〔博士前期課程〕、看護学専攻〔博士後期課程〕）を設置し、本学の教育・研究力の強化と、それによるブランド力の向上を目指している。本年度より『次世代のがんプロフェッショナル養成プラン』に参画し、大阪大学が拠点となる「地域に生き未来に繋ぐ高度がん医療人の養成」プログラムの取り組みとして、本学修士課程に在籍する学生を対象として新たなインテンシブコースの開講を目指すこととなった。2024年3月には保健医療学研究科インテンシブコース開設記念シンポジウムとして『「がんと共に生きる時代」～リハビリテーション、鍼灸からがん医療への新しいアプローチ～』を実施した。

「研究」

研究面では、各学部、学科での取り組みに加えて、インクルーシブ医科学研究所を主体に本学の中心的研究テーマを設定して業績発信に努めてきた。また、新たな研究支援策として、インクルーシブ医科学研究所でURAによる科研費申請書の添削プログラムを取り入れた。その結果、外部資金獲得において、科研費については新規・継続課題併せて47件の採択があり、科研費配分額において全国私立大学の中で2023年度は591大学中197位（2022年度：585大学中191位）となり昨年度に引き続き良好な採択状況となっていた。また、昨年度より学長奨励研究費（発展的研究体制構築型）を創設し、採択プロジェクトのグループを中心にその成果として本学からの主要なjournalへの投稿・掲載数が増加している。

「社会連携」

地域に根付く医療系総合大学として、様々な社会連携事業を積極的に展開した。

- ・国立病院機構大阪医療センター、労働者健康安全機構大阪労災病院と相互連携協定を締結し、保健医療、医学分野における共同研究や相互の人的交流を推進していく。
- ・シニア世代を対象としたNPO法人 大阪区民カレッジ住之江・住吉校の6月度の授業を中谷謙教授が担当し好評を得た。
- ・本年度第1回市民公開講座として6月に大阪大学医学部感染制御学の忽那賢志教授にご登壇頂き、「コロナ禍を振り返り、これからを考える」を実施した。当日は、一般市民、学生、教職員を合わせて160名以上の参加を得た。10月には第2回市民公開講座「口から元気になろう！～話す・食べるから健康寿命を「伸ばす」～」を実施し、約140名の参加を得た。
- ・大阪・関西万博開催までの機運醸成への協力として、「TEAM EXPO 2025」プログラム／共創パートナーに登録。2024年2月15日(木)に関西大学梅田キャンパスにて開催された、大阪・関西万博 TEAM EXPO2025テーマセッション 5大学（関西大学・甲南女子大学・京都光華女子大学・武庫川女子大学・森ノ宮医療大学）連携イベント「学生×ウェルビーイング第1回プレ会議」に本学より14名の学生が参加した。

「大学附属クリニック新設」

昨年11月に開設後、次第に受診者数も増加し地域医療への貢献を果たしている。また、在校生の予防接種や健康管理一元化推進、教職員の福利厚生充実を引き続き図っている。さらに、教職員でベイクリニックの受診時の自己負担額を補助する制度を開始し、教職員の福利厚生を向上するとともにクリニックの受診促進を行った。

② 学部再編および新学科設置に伴う募集力の確立

テレビCMの放映により、近畿圏だけでなく中四国における本学の認知度を向上させた。昨年度に設置した入学広報センターを中心に、広報課や各学部、学科との情報共有の円滑化が推進され、毎月の定例会議において資料請求者数、WEBサイト、イベント来場者数、入試状況等の情報共有、詳細な分析を実施し広報戦略の多面的な立案と計画遂行を行い、募集力の確立に努めた。また、「3学部体制」に移行したことによる学部内・学部間での連携強化による教育、本学独自のIPE、キャリアデザインの充実など、オープンキャンパスでの学部特別プログラムを通じて発信した。こういった取り組みにより、全国的に医療系学部進学希望者が減少する中で、入学志願者を確保することが出来た。さらに、2024年度開設予定の言語聴覚学科の広報活動を本格化し、パンフレット作製や専用WEBサイトで外部へ発信した。

③ 入試制度改革への対応と地方入試戦略

入試運営センターを中心として、入試に関連する最新情報の共有、詳細な学内外の入試分析による各学部・学科の受験者動向などを検討し、入試対策を行った。また、下部組織である作問部会での入試問題の詳細な検証を通じて、本学が設定するアドミッションポリシーに叶う入学者の選抜、さらに入試問題の質向上と、出題過誤による入試運営の障害などを未然に防ぐことが可能となり、入学試験制度そのものの質が向上した。さらに、2025年度入試から文部科学省の新指導要領による「新課程」に対応した入試制度に対応すること、遠隔地受験者が受験しやすい環境を創設することについての検討を始動した。

④ 魅力的な包括的学修支援体制の構築

従来からあるMANABELを更に充実させ、入学前教育、リメディアル、学部教育、卒業後教育を連動させ、高い国家試験合格率および医療機関へ貢献できる卒業後教育体制を構築した。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の取り扱いが「5類感染症」に移行したことに伴い、講義は対面授業を再開し、必要に応じて教育の質が担保されたオンライン授業を併用するなど、COVID-19感染症による修学への影響を最小化し、課外活動を含めた学生生活制限を見直すなど学生の学修・課外活動環境確保に努めた。就職支援について、対面での就職説明会を再開、低学年を対象とした企業による勉強会、SPI適性検査に対応できる受験会や対策講座を実施し、低学年からキャリアデザインの構築が可能となる環境および就職後のミスマッチが発生しない環境の確保に努めた。また、修学上の困難を抱える学生に対しては、関係する部署が連携して状況把握し、必要な合理的配慮を提供できるシステムの構築を確立した。また、大学附属ペイクリニックの受診者を対象に、10月1日より在学生に対して受診時の自己負担額を補助する制度を開始し、学生の健康管理サポート体制を充実した。このような取り組みを充実させることで、学生生活の満足度向上、学修環境の確保に繋がった。

⑤ 感染症対策

学内における感染症対策として、健康管理センターを中心に附属クリニックや関係各所と連携し、社会状況を加味した感染症対策を講じることで、クラスターの発生もなく、学生の学修・課外活動環境を確保した。また、新型コロナウイルス感染症が5月から5類感染症に移行後は、社会情勢などを鑑みながら徐々に制限の解除を行い、感染症予防と学修・課外活動環境確保の両立を可能にした。

⑥ 各部署の取り組み

【看護学部】

2022年度に看護学部、保健医療学研究科看護学専攻として独立し、看護学教育・研究における新たな段階に入って2年目を迎えた。文科省のアフタケアの指摘のとおり、2023年度の課題は、教員の定着による看護学教育及び研究の質向上を図ることであった。看護学科、保健学研究科看護学専攻、助産学専攻科の3部門を看護学系の一つのユニットとして位置づけ、連携と協働を強化して学部学科及び大学院運営体制を改善した。

ここでは、看護学科及び助産学専攻科教員で組織されている保健学研究科看護学専攻の教育体制の強化の概要を説明する。多面的・専門的見地からの助言を得て、院生が効果的に修士・博士論文の研究に取り組めるよう、3月の中間発表に加えて、9月に大学院合同ゼミを設定し、定例化した。一方、年度当初に、2024年度からNPコースを廃止することが決定され、前期課程は2024年度から研究コースのみの9人定員となる方針が示された。そこで、2024年度から教育を開始できるよう、現存の教員の業績を踏まえて、「看護教育学」「看護管理学」「急性・慢性・がん看護学」「老年看護学」「精神看護学」「在宅看護学」「育成看護学」「公衆衛生看護学」の8つの専門分野別の研究指導體制に基づくカリキュラムを整備した。

・看護学科

昨年度に引き続き、教育の質の向上・教育内容の充実、国家試験対策の強化、教員の研究力向上を主な課題と位置づけて取り組んだ。

教育の質の向上としては、2022年度から運用が開始された現行カリキュラムの課題を抽出し、学年進行後の2026年度に新たなカリキュラムを導入することを前提として、全教員の集中的な討議に基づいてディプロマポリシーの根本的見直しを行い、5項目のポリシーを新たに策定した。

教育内容の充実としては、医療用シミュレーターの活用に加えて、2025年度からのナースングスキル・システムや電子教科書の試行等の導入準備等、授業へのICTの活用を中心に教育環境の整備を行った。

国家試験対策は、学生の主体性を重視する支援へと方向転換を図りつつ、模擬試験の成績下位の学生に対しては、担任・チューターが個別指導を強化する等、学生の状況に応じた支援を実施した結果、看護師・保健師国家試験ともに合格率100%であった。看護師国家試験合格率100%は7年連続、保健師は5年連続であり、学生の主体的な学修姿勢の習熟と教員による支援体制の確立によるものと考えられる。

教員の研究力向上については、看護学科研究支援部会のコーディネートにより、教員のリクエストを踏まえて、統計ソフトを用いたデータ分析方法を学修するFD研修を実施した。また、科研費の申請及び採択の向上を目指して、全学の取り組みであるURAの活用に加えて、看護学科独自の取り組みとして、科研費採択経験者から科研費申請のコツを学ぶFD研修会の開催、科研費採択経験者有志による科研費申請書作成の助言を実施した。その結果、科研費申請26件、新規採択3件、継続課題5件となり、2022年度実績より増加したことから、次年度にもこの支援を継続する方向である。一方、査読付き論文採択数は邦文7編、欧文0編で、十分な成果には至っていないことから、科研獲得を促進して研究成果を上げる良循環を生み出す仕組みの定着を目指す。

【総合リハビリテーション学部】

2023年度は総合リハビリテーション学部が開設されて2年度目となる。2023年度は理学療法学科と作業療法学科の2学科の充実に加えて、2024年4月に予定されている言語聴覚学科の開設準備を進めた。昨年度より立ち上げている総合リハビリテーション学部プロジェクトチームに中谷教授(言語聴覚学科学科長に就任予定)に参加頂き、開設に先行して各種取り組みにおける言語聴覚学科の参画について情報共有頂いた。また、オープンキャンパスでは2回にわたって「総合リハビリテーション学部プログラム」を実施し、言語聴覚学科開設についての発信をするとともに、3学科を有する学部としての魅力を伝えた。さらに、咲州プレ万博共済事業である「2023歯科万博」にて中谷教授が講演し、また本学の「2023年度第2回市民公開講座」にて総合リハビリテーション学部として「口から元気になろう！」というテーマで講演会を実施し、総合リハビリテーション学部の魅力と言語聴覚学科の開設について発信した。新棟の建設も順調に進み、2024年3月に竣工を迎えた。理学療法学科は東棟から新棟(葵棟)に移動し、学科運営や教育活動の効率化に向けての準備を進めた。葵棟1階は学生の福利厚生と地域の利用促進のため、明るい飲食施設と交流スペースとした。また、理学療法学科、言語聴覚学科の実習や実技に使用する機器、設備も最新のものに更新した。このような取り組みの効果もあり、本学リハビリテーション学部を志願する受験生の偏差値帯が上昇するするとともに入学者の学力面での向上も認められ、2024年度入試では3学科全てで入学定員を充足した。さらに、国家試験対策についても理学療法学科、作業療法学科ともに教員が積極的に取り組み、学生の努力もあって両学科共に2023年度卒業生の国家試験合格率を100%とした。特に、作業療法学科は4年連続の合格率100%であり全国で2校のみ、私立大学では唯一となる特筆すべき結果を得た。

・理学療法学科

2023年度、理学療法学科では各教員の有する専門知識を活かしたスケール化、プロジェクトの推進力向上、外部連携の強化、認知度向上などを目指し、5領域1部門からなる「領域制」への移行を推進した。あわせて学生指導の充実、研究エフォートの確保を目指して、業務整理・業務圧縮に取り組んだ。これらの成果について、以下の指標を注視し、継続的な見直し、改善を進める。

- ・ 国家試験合格率：2021度は98.4%、2022度は98.6%であったが、2023年度の国家試験において現役生は100%の合格を達成した。
- ・ 4年卒業率：2023年度の14期生の4年間卒業者数57名、卒業率81.4%で昨年度の94.3%よりも大きく下回り目標とした95%に届かなかった。
- ・ 2023年度科研の新規採択は1件、継続5件であり、また論文本数は英文10本、和文1本であった。
- ・ 大学院進学者数：23年度は本学理学療法学科を卒業し、大学院に進学したものの3名を迎えた。
- ・ 就職関連：既存の第一志望就職率について検証した結果、安全圏での就職活動を助長していたおそれがあったため、就職後一年定着率に改めた。
- ・ 学生満足向上：学科独自の学生満足調査を2023年11月に実施した。他学に自慢できることとして教員、近畿圏で終われる臨床実習、国家試験対策があげられていた。一方、教育内容に関して、“最新機器を使って”、“将来にも役立つ”優れた技術や知識が期待されているながら、十分に伝えられていないことがわかった。2023年度後期から教育内容の見直し、2024年度の新たな教育プランを作成した。
- ・ 志願者数確保：一定数の高校出張講義を実施し、オープンキャンパスでの模擬講義も実施したものの、学科志望者数は736名で昨年より29%減少した。2024年度に向け体験を中心としたより魅力あるオープンキャンパスの計画を立案した。
- ・ 専門領域での社会貢献：金尾顕郎大会長のもと本学で第36回教育研究大会・教員研修会を開催した。

・作業療法学科

2023年度の学科の主な取り組みは、前年度に引き続き、国家試験対策の維持・強化ときめ細やかな学生教育・学習支援である。

2023年度の第59回国家試験は4年連続で100%合格を達成できた。2021年度から立ち上げた国家試験対策委員会を中心にして定期的に国家試験対策についてのアップデートを重ね、3年後期の春休み期間中から開始する国家試験短期集中講座（国試塾）やアクティブラーニングを中心としたグループワークによる基礎学力の向上、あるいは各種業者模試の導入と適宜実施する学生への個別指導、国家試験直前の集中対策講座や教員とのペア学習など、森ノ宮医療大学作業療法学科としてのメソッドの成果が出たものではないかと考えている。ちなみに、全国の大学で2023年度まで4年連続して国家試験合格率100%を達成しているのは本学を含めて2校のみであり、非常に高水準であることが伺える。学生に対するきめ細やかな学習支援としては、i)入学前教育（対面ではなく課題を郵送して入学後の学科オリエンテーション時に持参）、ii)1年次からの基礎医学補講

(担任担当)、iii)4年間継続した模試の実施(3科目模試・国試過去問)、iv)当事者がストリーク参加型授業、v)実習前や授業内において客観的臨床能力試験(objective structured clinical examination: OSCE)の導入・ルーブリック評価の実施、vi)臨床実習(CCS方式)・臨床実習指導者研修・オンラインSV会議&研修、vii)校友会主催の卒後教育研修実施・森ノ宮医療大学学術大会における卒業生対象の研修会実施、viii)臨床実習に関しては、これまで各学年ごとにバラバラであった「手引き」をワーキンググループが中心になって1冊にまとめ上げ、効率化をはかった。

就職に関しては、キャリアセンターとの連携および教員の就職指導により、就職率100%を達成し、第1希望就職率95.4%となり、臨床実習施設への就職率は95.4%と、かなりの高確率で第1志望および臨床実習施設への就職ができています。

アドミッションにおいては、可能な限り高校出張講義を実施し、オープンキャンパスでの模擬講義も毎回テーマを工夫し、国家試験合格者を前面にアピールするなどの工夫を行い、学科志願者数の増員に努めたものの、昨年の131名から106名(延べ人数)と減少傾向となったため、広報課と連携し本学科の周知を図っていきたいと考えています。

教員の研究に関しては、査読付き論文は和文3編、英文2編で、筆頭著者は4名であった。また、科研費に3名が採択された。

【医療技術学部】

2022年に臨床検査学科、臨床工学科、診療放射線科、鍼灸学科の4学科体制で開設され、2年度目となる。広報と協働して「学部3学科特別プログラム」を2回実施し、臨床検査学科・臨床工学科・診療放射線科はどの学科でも同じフィールドで活躍出来ることを発信し、鍼灸学科では実技体験など募集力の強化に繋がるオープンキャンパスを開催した。その結果、臨床検査学科・診療放射線科では昨年度同様の高い入学志願者数を維持し、特に臨床工学科・鍼灸学科では昨年度と比較して大幅な入学志願者数の増加を認めた。本年度から、学科を横断して学べるエクシードゼミを開講し、ベーシックコースは18名、アドバンスコースは38名の学生が修了した。臨床検査学科・臨床工学科・診療放射線科では、タスクシフトによる業務の拡大に伴う新たな教育プログラムへの対応を行った。診療放射線科は完成年度を迎え、高い卒業率と全国平均と比較して高い国家試験合格率を達成し、臨床検査学科・臨床工学科・鍼灸学科は昨年度同様に全国平均と比較して高い国家試験合格率を維持した。

・臨床検査学科

2023年度の臨床検査学科は、①国家試験目標合格率100%、②臨床検査学科第一希望入学志願者の確保、③臨床検査技師に関する法律改正に伴う臨地実習の見直しを重要課題としてきた。

①国家試験目標合格率100%

国家試験対策としては、3年生後期の特別補講による基礎学力の向上、国家試験2か前から成績下位者への集中囲い込み講義の強化を国家試験対策スケジュールに組み込んだ。結果、合格率100%におよばなかったが、2023年度新卒者は98.2%と全国平均88.0%を大きく上回った。合格率は医療系私立大学全国5位、関西地区1位と高い水準であった。加えて、2023年度新卒国家試験合格者数は昨年度より1.8%増加した。2024年度も若手教員を中心に

学生の学力に応じた指導の強化、1年次から国家試験を見据えた授業を行い、教員一丸となって国家試験合格率100%を目指したい。

②臨床検査学科第一希望入学志願者の確保、

臨床検査学科第一志望者数は2021年度477名、2022年度は355名と減少に転じた。しかし、2023年度は448名と2021年度を上回るまでに復し、入学者は全員、臨床検査学科第一希望学生であった。今後は、医療技術学部の診療放射線学科、臨床工学科と連携を取り、入試課・広報課の協力のもとに高校生へ医療技術の魅力と必要性をアピールし、医療技術学部内の第2・第3入学志願者を増やすことで、さらなる入学志願者増加と学力の高い学生の獲得を目指す。

在学中にさらなる知識の向上と専門職資格を習得できる細胞検査士資格取得コース第一期生の講座が修了し、細胞検査士認定試験を受験した。結果、6名の受験全員が合格した細胞検査士認定試験の全国合格率は30%程度であり、受検者全員合格は全国トップクラスである。

③臨床検査技師に関する法律改正に伴う臨地実習の見直し

臨地実習受け入れ施設は64医療機関となり、関西一の実習施設数と提携している。そのすべては地域医療の中核を担う基幹病院である。学生には先端医療を経験、臨床検査技師としての専門的知識・技能を深め、実践能力を培うことができる環境を整えている。就職に関してもキャリアセンターと協働し、2023年度国家試験合格者の就職率は100%となった。

・臨床工学科

2023年度の取り組みは国家試験合格率100%、学習習慣の確立と日常の自己管理、学生確保の取組、教員の研究活動と研修の充実といった内容である。

2023年度は新型コロナの5類移行により弱点であった学生への勉強指導アプローチがweb、対面とより強固に実施することができた。結果、学生に対し臨床工学の仕事理解が向上し、企業就職・病院就職ともに早期に合格を獲得した。また、学生サポート面でも各教員の時間を確保し徹底的な学習支援サポート体制（定期的早期からの補講）を実施し、4年生学内模試の回数増と補講による学生理解度向上に繋がり国家試験合格率向上に至ったと考える。1～3年生ではチーム医療見学実習、早期病院見学実習、解剖見学実習といった行事が再開され臨床工学技士のイメージが膨らんだと好評であるため、24年度も実施する。また、学生間での交流の場が無いとの学生意見から、9月に臨床工学科学学生卓球大会と称した、全学年希望制による参加で他学年での交流を深めた。一方で、学生の中にはモチベーション維持に苦労した学年では休学・退学もあったが、教員一丸となり保護者を交えた面談により臨床工学技士になりたい意欲や、興味を引き出せたことは評価できる。4年生では、卒業試験の結果による保護者を含む4者面談を実施し、国家試験への取り組みや卒業単位への周知説明を行う事で大学・家庭・学生とのトライアングルで信頼の基盤を築くことができ、3月の国家試験まで精神面でのサポートも届いたと感じる。

学生確保の取組については、サマースクールやひらめきときめきサイエンスといった従来から実施してきたイベントを実施でき、臨床工学技士への注目度が高まることを期待するとともに、広報課と協同し、本学科の周知を図りたいと考えている。また、高校訪問だけでなく、23年度は三国中学校2年生への出張講義を実施した。これにより低学年層からの臨床工学技士という職種を知るきっかけになった。24年度以降も中学生対象の訪問強化に努める。23年度入学生は定員数の60名と低迷であったが、24年度入試では志願者数が増加し22年度、23年度のオープンキャンパスや学部オープンキャンパス実施が大きく反映された結果と推測される。

2023年度「国家試験合格率 100%」を目標に掲げたが、結果：国家試験合格率は98.2%(55名/56名) (全国平均：79.5%) と1名の不合格となった。今年度、合格者数の輩出者数は全国4位の人数であった。就職率は100%となり、3期生で初めて4月時点で実現となり総合的に高い結果であった年度である。

教員研究/活動では、4年連続ひらめきときめきサイエンスが1名の採択となった。また、9月に教員3名がチュニジアのチュニス・エルマナール大学へ訪問し現地学生に講義を実施した。さらに、現地外科専門病院の見学を行い医師に対して臨床工学領域の講義を実施し、臨床工学の必要性について検討会を開き交流を深めた。

・診療放射線学科

診療放射線学科は2023年度で完成年度を向えることから1期生の卒業に向けて、「国家試験合格率100%」、「就職・進学内定率100%」を最重要課題として取り組んだ。さらに4年間の学修効果を振り返り、より教育効果を高めるために2024年度入学生から採用する「新カリキュラムの編成」を実施した。

「国家試験合格率100%」

1年生、2年生に対しては、学修支援WGを中心に履修科目を理解するために必要な基礎学力の向上を目指してステップアップ講座を開講した。各学期の初期にテーマごとの学力テストを実施し十分な基礎学力が備わっていない学生を抽出して学生のレベルに合わせた授業を実施した。3年生、4年生に対しては、国試対策WGを中心に国家試験に準じた学科オリジナル模擬試験の作成および成績分析を行い、各学年に適した国試対策を実施した。3年生には早期に国家試験問題に触れ、国家試験に向けた意識を高めるために模擬試験を4回実施した。その後、出題問題に対する解説ノート作りを行い、知識の定着を促した。4年生に対しては、4月から模擬試験を6回、業者による全国統一模擬試験を3回、さらに特講科目の単位試験として特講科目総合試験（国家試験に準じた200問）を3回実施した。模擬試験終了後には各研究室単位で問題検討を行い、グループ学修の推進を図った。また、模擬試験の得点によってクラス分けを行い、学生の理解度に沿った補習を実施した。

2023年度は4年生75名在籍に対して72名が卒業し、96.0%と高い4年卒業率を確保できた。また、卒業する72名が国家試験を受験し、合格率は全国の新卒合格率86.3%を上回る91.7%であった。

「就職・進学内定率100%」

キャリア支援センターの協力を得て就職支援WGが企画し、2023年度6月に3年生、4年生を対象とした企業就職説明会（6社）を開催した。また、4年生を対象とした病院説明会

を4月、8月に開催し、合計4医療機関の参加が得られた。2024年3月末での就職・進学内定率は98.5%（就職：63名、進学・留学：2名）と高い水準を確保することができた。就職先の内訳は、大学病院 8名、国公立病院 12名、公的病院 3名、民間病院 37名、企業 3名となった。

「新カリキュラムの編成」

診療放射線技師に対するニーズの増大と多様化、タスクシフトによる業務の拡大、さらには指定規則の単位数が95単位から102単位に増加されるなど診療放射線技師教育を取り巻く環境は大きく変化している。そのため、2023年度に新カリキュラム編成WGを中心に現行カリキュラムの問題点を洗い出し、改訂案を取り纏め、2024年度入学生より適用する新カリキュラムの編成を実施した。現行のカリキュラムにおいても診療放射線技師として必要な知識や技術の修得は可能となっているが、各学期における学生への負荷のバランスを整えるため、1年で開講する教養科目群および専門基礎分野の開講時期を見直し、教育効果を向上させる構成とした。また、様々な高度医療機器を扱うために必要な実践的知識・技術についての基礎的な学力への対応をさらに充実させるため、現行科目の統合と分離を行い、各モダリティを系統的に教育できるように再編した。さらにより早い段階で臨床の現場を経験し、医療職に就くという自覚を促し、自立した学修を進めるために臨床実習の開講時期を半期分早めた。

・鍼灸学科

学生募集の結果、2024年度の新入生は73名（第一志望者69名）となり、前年度と比較して新入生、そして第一志望者が大幅に増加する結果となった。オープンキャンパスにおいて、広報担当教員をはじめ、学科教員全員が来校者に対して丁寧に対応した結果であると考えられる。

2023年度のはり師・きゅう師国家試験の結果は、はり師：52/55（合格率94.5% 全国平均：69.3%）、きゅう師：53/55（合格率96.4% 全国平均：70.2%）であり、はり師・きゅう師ともに初めて合格率大学日本一となった。今年度の国家試験は広く基礎力を問われる傾向にあり、本学で実施した基礎力強化の対策が功を奏したのではないかと考えられる。しかし、学科の目標はあくまでも「合格率100%」であることから、今回不合格であった学生の学習状況をしっかり分析し、目標達成に向けて努力したい。

本年度も都道府県の教員採用試験に既卒生3名が合格した（2名大阪市中学校：支援学級 1名大阪市中学校：数学）。数学の合格者は卒業後、大阪市中学校で常勤講師として、支援学級の担任をしながら、通信にて数学の免許を加え、この度合格した。この結果、スポーツ特修コース開設以来（2012年～）、合計18名の学生が教員採用試験に合格し、教壇に立っている。2023年度は久しぶりに現役生が1次試験を突破した。また、既卒生の1次合格者も数名いることから、来年度も合格者の増が見込める。そして再び現役合格者を出すことができるように取り組んでいきたい。

学科教員査読付き論文は和文1編、英文3編で、筆頭著者は2名であった。今後も、他学科・学部とも連携し、さらに研究活動を活性化したい。

・森ノ宮医療大学附属鍼灸臨床センター

2023年度は森ノ宮医療大学コスモス治療院から森ノ宮医療大学附属鍼灸臨床センターに名称を変更し、学内外の看板や広報物もそれに準じた。受療状況はCOVID-19の影響も少なくなり、患者数は前年度比1.35倍に増加した。総収入も前年度より675,600円増加した。森ノ宮医療学園校友会から学生治療費の半額補助も受けることとなり、学生患者数は前年度比2.6倍となった。その結果、学生実習の対象患者も136名増の520名となり、大学附属の教育施設として充実した。はり師・きゅう師養成校指定規則では、臨床実習4単位中3単位は養成施設附属治療院での実習しか認められておらず、実習対象患者の維持・増加は本学の教育向上と患者を対象とした臨床研究の充実には不可欠である。2023年度の1施術者の担当患者数は1日あたり2.2±0.6名であり、2024年度以降は3.0名の安定的維持が課題となる。

1) 2023年度実績

	患者数 (名)	初診数 (名)	学生実習数 (名)	雑収入 (円)	校友会 補助金 (円)	総収入 (円)
4月	112	15	58	3000	9500	250000
5月	144	9	87	1200	8000	314200
6月	136	10	78	3600	10000	281100
7月	152	15	50	1200	13500	276200
8月	130	8	20	4200	6500	282700
9月	159	12	82	3000	7500	350000
10月	154	10	48	1200	13500	364700
11月	138	16	37	1200	14000	349200
12月	156	13	48	4200	16500	388200
1月	132	9	12	4200	11000	391700
2月	111	2	0	1200	8500	372200
3月	130	9	0	2400	9000	448400
合計	1654	128	520	30600	127500	4068600

【大学院保健医療学研究科】

1) 学生募集

2023年度入試において保健医療学専攻修士課程9名、医療科学専攻博士後期課程1名、看護学専攻博士前期課程論文コース1名・NPコース6名、看護学専攻博士後期課程1名の入学予定者を確保した。また、保健医療学専攻修士課程2年の1名が休学、同2年の1名が留年した。これにより2023年度の在籍院生は保健医療学専攻修士課程15名、医療科学専攻博士後期課程6名、看護学専攻博士前期課程13名、看護学専攻博士後期課程3名となる予定。

2) 授業関連

COVID-19感染拡大状況を見ながら適宜オンラインと対面の混合で授業を実施した。一部の院生に学位論文のための被験者募集等に影響が生じたが、指導教員による個別の対応により結果的にはおおむね予定通りの授業と研究指導が遂行できた。

3) 学位授与

保健医療学専攻において 8 名の修士（保健医療学）、医療科学専攻において 1 名の博士（医療科学）、看護学専攻において 2 名の修士（看護学）の学位を授与した。

4) 看護学専攻博士後期課程および博士前期課程 NP コースの学習環境整備

2022 年度から看護学専攻博士後期課程 2 名を受け入れ、文科省提出書類に沿った教育研究活動を開始した。NP コースについては高槻キャンパスを設置し、6 名を受け入れて授業を開始した。なお、NP コースについては 2024 年度募集から停止することとなった。

5) 学術セミナーの開催

2022 年度からインクルーシブ医科学研究所との共催とし、年度内に 11 回開催した。うち 10 回の講師は本学教員であり、1 回（第 115 回）は日本における診療看護師（NP）の現状と将来についてのシンポジウムを本学と社会医療法人愛仁会との共同で実施した。

【助産学専攻科】

2023 年度は、コロナ感染分類が 5 類となったが、看護を学んで進学してくる学生が、コロナ禍でほぼ実習に出ることができなかったという現状を踏まえての教育方法を考える必要があった。そこで事業目標は 1) 助産教育の到達目標のレベルを下げないことを最重要課題とした。さらに 2) 国家試験 100% 合格、3) 内部受験生の退学を減らす、4) 一般入試受験生の受験率のアップ、5) 教育備品の充実、6) 実習施設の開拓を掲げた。

1) コロナ禍での助産教育の質の担保においては、講義・演習の中でも臨床に近い状況設定で伝えるとともに、OSCE 教育を多く取り入れて、コミュニケーションを取りながら診断し、ケアができるような演習を取り入れた。実習においては、まだまだ実習制限されることも多かったが、個人クリニックのおかげで指定規則の介助数が達成できたと考えている。ここ数年コロナ禍でも指定規則に準じた分娩介助数を達成できているということで他校に比較して就職施設には高い評価をいただいている。助産ケアに関しても実習施設のご協力を得て、妊産褥婦、家族新生児と接する時間をなるべく多くできるような実習を組むことができた。2) については専攻科開設以来国家試験合格が 100% を達成できており、2024 年度も気を抜くことなく模試など進めていく。3) 内部受験生の退学については、残念ながら 2023 年度も 1 人退学が出た。成績が不振となり、母親とも連携を取り見守ってきたが、何とか実習に行けたものの、精神的についていけなかったようでリタイアとなった。教員も学生とのかかわり方をさらに検討するとともに、内部生については看護学部とも連携をとって、全員を卒業させるべく努力していく。5) 教育備品の充実については、備品の整備が年度ごとになされ、充実に向けて進んでいる。卒業時の到達度を達成するためには学内の演習で教育効果を上げ、実習に臨むことが重要であり、リアルモデル等の設備が必要であり、シミュレーション教育は必須である。上層部の配慮のもと、毎年機器等の整備が進んでいる。

6) の実習施設の開拓については、2024 年度から新施設の開拓ができた。開設以来でこぼことした実習日程を調節すべく交渉してきたが、2024 年度からようやく念願の前期実習、後期実習の日程的な体制が整った。あとは各施設の分娩件数の問題である。

助産学専攻科自体の問題として 2023 年度当初は、5 人体制で臨んでいたが、6 月から教員が 1 名発病で休職し、9 月の急逝で急遽 4 人体制を余儀なくされた。7～12 月の実習期間は、1 施設に教員が必ず一人張り付かないといけないので、5 施設以上の同時実習で教員もフル回転であったが、非常勤の先生方に無理をお願いし、応援を得て何とか予定通りの実習期間

を乗り切れた。教員の頑張りとは非常勤助手の先生方には感謝しかない。2024年度から上層部との検討の結果、1施設2名という実習施設の学生受け入れ人数が増えない以上、学生8名の募集となった。

助産学専攻科は1年課程であり、前期は講義・演習に多忙であり、7月からは夏休みなく実習に突入する忙しい1年となる。教員の体調も管理することの重要性も実感した1年であった。しかし、忙しい中でも教員として研究を進めることや社会への貢献も重要であるため、科研申請や社会活動にも参加し、教員も自己研鑽しなければならない。それぞれが協力し、時間を作りながら専攻科の目標を達成していきたいと考える。

【研究支援センター】

本学の研究支援体制のさらなる充実を目指し、新たに下記の事業に取り組んだ。

- ・ 科研費等外部資金獲得支援について

科研費の外部資金獲得支援として、URAによる科研費添削サービスの利用を行った。各学科およびMINCLで希望者を選考し、計16課題について1回または2回の添削サービスを利用した。

- ・ 大学院学術セミナーの開催サポート

2023年度より四半期に1回の開催に変更となり、開催のための講師依頼や学内周知等の業務を大学院と連携して行った。

また、学長推進研究支援事業としては、下記取り組みを継続して行った。

- ・ 学長推進研究支援事業 科研費 研究計画調書 閲覧制度による支援

科研費における研究計画調書の作成において有効な情報提供を行うことにより、応募の支援、促進、採択件数の増加を目指すため、研究計画調書の開示を行い希望者が閲覧できるようにした。

- ・ 学長賞（優秀論文賞）による表彰

研究活動の促進、研究発表論文投稿の奨励、ならびに優れた論文を広く社会に公表することで本学の学術研究の振興を図ることを目的として、優秀論文発表者に対して学長賞（優秀論文賞）を授与する制度を設けている。受賞者については学内のみならず本学ホームページにおいても公表し、本学研究者の研究意欲の向上を目指している。森ノ宮医療大学 第7回 学長賞については下記研究者に対し表彰した。

森ノ宮医療大学 第7回 学長賞

増山 祥子 准教授（鍼灸学科）

Shoko Masuyama and Hitoshi Yamashita. Trends and quality of randomized controlled trials on acupuncture conducted in Japan by decade from the 1960s to the 2010s: a systematic review. BMC Complementary Medicine and Therapies. 2023.

東 泰弘 准教授（作業療法学科）

Yasuhiro Higashi, Toshikatsu Kaneda, Yoshimi Yuri, Takumi Horimoto, Yuta Somei, Kimiaki Hirayama: Development of toileting behaviour evaluation for

Japanese older patients using wheelchairs in a hospital setting: a validation study.
BMC geriatrics. 2023.

- ・学長奨励研究プロジェクト「学長奨励研究費（発展的研究体制構築型）」による支援
効率的なチーム研究体制や学科横断・領域横断的なチーム研究による革新的な研究課題に
対して審査の結果支援すべき研究課題であると判断された場合に、学長奨励研究費を配分
することで支援を行うもので新規に支援を行った。2023年度は下記2チームへ贈呈した。
学長奨励研究費（発展的研究体制構築型）

研究代表者：工藤 慎太郎 教授（インクルーシブ医科学研究所）

共同研究者：川畑 浩久、堤 真大、河西 謙吾、池津 真大

テーマ：関節周囲構造のインタラクションに注目した内側半月逸脱に対する保存療法の
開発－基礎研究と臨床理学療法学のtranslational study－

研究代表者：松崎 伸介 教授（診療放射線学科）

共同研究者：中原 英博、川畑 浩久、工藤 慎太郎、堤 真大、河西 謙吾、宮下 敏紀、
大西 彩子、垣本 晃宏

テーマ：フレイル関連疾患に対する効果的予防法・治療法の検討

- ・学長推進研究支援事業「学長奨励研究プロジェクト（研究基盤構築型）」による支援
「学長奨励研究費（研究基盤構築型）」は科研費（若手研究・基盤研究種目）において
残念ながら採択には至らなかったものの、審査の結果支援すべき研究課題であると判断され
た場合に、学長奨励研究費を配分することで支援を行うものである。2023年度は下記研究者
へ贈呈した。

学長奨励研究プロジェクト（研究基盤構築型）

山口 功 教授（診療放射線学科）

テーマ：低線量CT肺がん検診における肺結節検出および自動計測の精度を担保す
るための画質基準の検討

- ・研究員等への科研費応募資格（特定応募資格）の付与
本学の優秀な研究員等に対して一定の条件のもと科研費応募資格（特定応募資格）を付
与することで、本学の科研費への応募促進ならびに獲得件数の増加に繋げることを目的す
る制度を設けている。本制度を利用して優秀な研究員等より申請があり、審査を経て応募資
格の付与を行った。
- ・インクルーシブ医科学研究所の運営に関する支援
セミナーの開催やインクルーシブ医科学研究所の会議等の事務的支援を行った。

さらに、その他の支援体制については下記のとおりである。

- ・文部科学省「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインならびに「研
究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に準拠した研究機関としての
体制の維持・構築、啓発ポスター掲示や大学経営・質保証会議（役員・事務局管理職対
象）での不正事案の共有等を行った。また2024年1月を研究費コンプライアンス強化月
間と定め、学内グループウェア（desknet's）により他大学の不正事案や科研費の適正な
使用に関する注意事項等を毎週配信することで、教職員の意識改革を目指した。
- ・APRIN e-learning システムを利用した研究倫理教育の実施（研究不正の防止）

- ・研究費コンプライアンス研修会による倫理教育の実施（研究費不正の防止）
- ・内部資金研究費の研究実態に応じた適正配分による効率的な研究推進・研究活動支援
- ・科研費・厚労科研・AMED等外部資金研究費の応募・申請支援（研究計画調書の事務的確認・支援、交付申請・委託研究契約手続き等の実施、その他応募支援）
- ・学術リポジトリ（web）上での「森ノ宮医療大学 紀要」の発刊
- ・ひらめき☆ときめきサイエンスの実施における事務的支援

【インクルーシブ医科学研究所】

設立4年目となり、1年目から取り組んできた科研費獲得および、研究論文数の増加が着実に実を結んでいる。具体的には2021年には36件であった英語論文は、2022年には59件、2023年は54件で、わずかに減少しているが、設立前の15件から考えると、360%増加と爆発的な増加を記録している。

本学第2期中期経営計画の中核施策の一つである「研究の森」づくりプロジェクトとして順調に進んでおり、科研費採択支援事業として、全学教員を対象としたセミナーの実施、さらに若手研究者を対象としたワークショップを実施し、ワークショップ参加者3名中、2名が科研費採択に結び付いた。

『健康長寿社会の実現』というインクルーシブ医科学研究所の研究テーマを掲げて、より基幹となる研究を発展させるための仕組み作り着手し、その成果として、特に株式会社凸版印刷、株式会社フォーカスシステムズとの共同研究の内容をコンソーシアム“Walkcare”として、2025年大阪関西万博の大阪ヘルスケアパビリオン内での展示も内定した。

これらの内容を学内外に伝えるために、パンフレットの作成を行い、インクルーシブ医科学研究所の存在と成果を多くのステークホルダーに宣伝することができた。

【健康管理センター】

森ノ宮医療大学附属大阪ベイクリニックと連携し、在学生のワクチン接種費用を一部補助することで学生がよりスムーズに接種できる体制を構築した。これにより実習前における学生の感染症予防の強化に努めた。さらに、在学生の診療費においても補助を行い、学内学生の健康に寄与できるように取り組みを行った。また、新型コロナウイルスの5類への移行に伴い、社会状況を加味しつつ、大学における登校制限のルールの見直しや感染症の拡大の防止に努めた。

健康増進関連事項：

- ・禁煙宣言の遂行（敷地内および近隣の全面禁煙・違反者に対するマナー指導・入学時に誓約書の提出）
- ・大阪ベイクリニックと連携し、診療費の補助、学生急病対応

健康管理関連事項：

- ・新型コロナ感染症予防対策の実施（感染者数のリアルタイムでの把握とアナウンス、学科、教務課、学生支援課との密な連携による感染症発症者の抽出・確認・帰宅

指示の運用、学生相談受付、登校制限・解除基準の更新と運用、感染症拡大防止に関する啓発活動、唾液 PCR 検査の実施)

- ・大阪ベイクリニックと連携し、実習前の各種予防接種等で連携
- ・新入生に対する健康管理調査に基づく個人面談
- ・外部のカウンセリングシステム (T-PEC) 導入による医療サービスの拡充
- ・Will 申請業務の速やかな実施

臨地実習関連事項：

- ・臨地実習における実習前健康診断関連業務の一元化
- ・感染症予防対策に関する全学ルールの統一 (日本環境感染学会ガイドラインに準じた抗体価測定・B 型肝炎ワクチン・小児感染症ワクチン接種ルール) をこれに準じた抗体検査～ワクチン接種統一フローの確立および臨地実習機関提出統一フォーマットの作成
- ・大阪ベイクリニックと連携し、実習前検診を実施
- ・必要時 PCR 検査施行

メンタルヘルスケア：

- ・心理カウンセラー、看護師などによるカウンセリングの実施
- ・学科教員との連携による支援
- ・外部のカウンセリングシステム (T-PEC) 導入による匿名相談窓口の拡充
- ・外部のハラスメント相談サービス (T-PEC) 導入準備 (2020 年4 月開始)
- ・休学者支援

【学修支援センター】

学修支援センターは、学修への取り組みをサポートし、主体的な学修が可能となるような種々の取り組みを行っている。2023年度は本学学修支援体制をさらに充実するべく、認知度向上を目標に掲げ、新たに下記の事業に取り組んだ。

- ・図書館とのコラボ企画
- ・新規HP公開
- ・全学共同入学前イベント

また、既存事業に関しては以下の内容を継続し、入学前からの学修サポートに始まり、リメディアル教育から専門科目、国家試験合格に至るまでのシームレスな教育サポート、多職種協働学習の促進とその基盤となる学科間交流などに貢献した。

■入学前学修支援：

- ・入学前学修コンテンツ (東進) の提供

■在学学生学修支援：

- ・入学時プレイスメントテストの実施
- ・リメディアル科目の学修支援講座 (=ステップアップ講座) 開講
- ・基礎医学科目の学修支援講座 (=ステップアップ講座) 開講

- ・ 専門科目の学修支援講座（＝ステップアップ講座）開講
- ・ SPI 対策講座の実施
- ・ オンデマンドコンテンツ配信（YouTube, Stream）の運営
- ・ 卒業生を登用したメンター制度（＝センターアシスタント）の運営
- ・ 関連資格取得（ME2種、放射線取扱主任者、医療情報技師、等）サポート
- ・ 国家試験対策サポート
- ・ ICT 活用サポート

【キャリアセンター】

キャリアセンターは、看護学部、総合リハビリテーション学部、医療技術学部、大学院の教員と事務局職員の教職共同で学生の教育・研究等、学生の就職活動、ボランティア、アルバイト等を支援し、学生のキャリアアップと森ノ宮医療大学のブランド力向上を目指している。2023年度のキャリア支援は「社会とのつながり」をポイントとした。医療の社会に関わるとして「知る（卒業生イベントの開催）」、「体験する（就職ガイダンス）」、「考える（MORIPAMAIステップの構築と運用）」、「働きかける（インターンシップの支援）」という4つのカテゴリに分けてカリキュラムを再編し、情報を届けるという枠組を学生からのみではなく、教職員から見ても分かりやすいカリキュラム構成にした。

現在、医療職全体の有効求人倍率は2倍を超え、他業種に比較し高い状態にあるが、医療職内で求人率に差がある。看護、リハビリテーションの職種は2倍を超える高い水準となっているが、医療時術職の有効求人倍率は1.5倍を下回る現状である。そこで今年度は医療技術職の就職支援を強化した。2023年度の就職、進学を含む進路決定率（3月現在）は94%（昨年度89%）と向上した。特に就職支援の強化を行った医療技術部の進路決定率（3月現在）は90%（昨年83%）と7%の向上がみられ、関西圏トップクラスの就職率となった。

【入学広報センター】

入学広報センターは、学生募集に係る企画立案および実施運営を担う、教職協働の組織である。2023年度の活動としては、オープンキャンパスをはじめとする各種イベントの実施、広報ツール（パンフレットやWEBサイト・動画）の制作、高校への出張講義等を行った。また、センター会議を毎月1回開催し、学生募集広報や入試に関する状況把握、データ分析を共有しているほか、入試運営センターと共同で全教職員向けのFSDセミナーも開催した。

【教職支援センター】

本センターは、本学の教職課程の質的向上を目指すとともに、教員免許状取得及び教職への就業等 教職を志望する学生の支援を目的としている。医療専門職と教員免許状取得を両立させる環境を学生に提供するため、令和5年度は次の取組を行った。

各種ガイダンスの実施：

- ・ 教育実習内諾に関するガイダンス
- ・ 教育実習、介護等体験に関するガイダンス
- ・ 教員免許一括申請に関するガイダンス

教員採用試験対策：

- ・専任教員による一般教養・教職教養対策講座の実施
- ・教員採用試験受験者へのサポート並びに受験指導
- ・卒業生に対してのサポート（筆記・面接・模擬授業・実技対策）
- ・教員採用試験対策に関する図書の出し学校現場・子ども交流体験の実施
- ・学校ボランティア（中学校に5名、小学校に5名が参加）
- ・発達障害児童生徒との交流会（体育館で実施 参加者のべ24名）

学生サポート：

- ・学習面や進路等について学生との面談・相談を実施教職事務の集約化:
- ・教育実習、介護等体験に関する業務
- ・教員免許申請に関する業務
- ・教職課程科目及び成績管理に関する業務
- ・教員採用試験、教員採用に関する業務

<令和5年度 教職免許状取得実績>

- ・教職免許状取得者数[教科：保健体育] 9名
- ・教職免許状取得者数[教科：養護教諭] 5名

<令和4年度 教員採用試験合格者実績（卒業生含む）>

- ・教員採用試験合格者数：3名（3名とも卒業生）
- ・私立学校教諭採用：1名（卒業生）

【卒後教育センター】

医療専門職の養成校として、生涯学習の継続を支援することは重要な課題であるため2015年から卒後教育センターを開設し、卒業生の医療者としての育成に取り組んでいる。2023年度の活動について、下記の事業について取り組んだ。

1. 第8回森ノ宮医療大学学術大会

- ・2023年10月22日（日）参加者500名（卒業生、関連施設職員、在校生、教員、高校生・父兄等）
- ・大会テーマ：生命（いのち）の光を技術（わざ）で紡ぐ
 - 1) 演題発表
 - ・72演題（査読あり）すべてポスター発表
 - ・表彰演題：最優秀演題1題 優秀演題3題を選出し表彰式を行った。
 - 2) 特別講演：「未来を紡ぐキミたちへ—想いを社会に届けるメソッド—」
 - 3) 森ノ宮医療大学校友会共催シンポジウム
 - ・シンポジウム1：「チーム医療で紡ぐ命 ～ラジエーションハウスから学ぶ～」
 - ・シンポジウム2：「だから研究は面白い ～若手研究者の苦悩と喜び～」
 - 4) 咲洲プレ万博参加プログラム
 - ・企業展示：医療や健康に関連する企業7社による実機を体験する機器展示を開催
 - ・学術大会見学ツアー：高校生を対象とした 学術大会・特別講演・企業展示見学ツアーを開催

2. RUSI (Rehabilitative Ultrasound Imaging workshop) の開催

- ・6月17日・18日 下肢編 26名
- ・9月23日・24日 上肢・体幹編 27名

3. 卒後教育セミナーの開催

- ・3月17日 股関節に対する理学療法 Update 30名
- ・3月23日 作業療法アップデート研修会 120名

4. BP の開催

- ・運動器理学療法アップデート講座 15名
- ・臨床工学周術期管理アップデート講座 5名
- ・呼吸ケア・リハビリテーションテクニカルコース 11名

今後計画した内容について、実施していく予定。

【地域連携センター】

地域連携センターは、本学における教育研究活動と地域社会をつなぐことにより、本学の地域貢献活動を総合的かつ組織的に遂行することを目的として設置された教職協働の組織である。令和5年度は、太陽の町地域での健康相談「まちの保健室」をバージョンアップし、血圧・脈拍測定や体操・脳トレクイズなどを学生が主体的に行う「もりもり健康長寿サロン」を7月よりスタートした。夏休みと春休み期間を除いて全5回実施した。また、看護学科主催の「もりもりひろば」「ほほえみクラブ」については、コロナ等による中止もなく、予定していたスケジュール通り実施することができた。

【共通教育センター】

共通教育センターは学生が共通して学ぶ教養教育の充実を図ることを目的として設置された教職協働の組織である。2023年度の活動として、学修支援センターと協力してリメディアル教育（ステップアップ講座）や国家試験対策の実施、国際交流センター事業である「森ノ宮医療大学英語教育プログラム（MEEP）」のTOEIC対策における集中講座の実施を行った。さらに、SPI対策講座、医療技術学部が実施する心臓ベーシックゼミ、教員対象の統計ソフト活用講座などの実施に協力した。

共通教育センター会議では、次年度の教養科目、専門基礎科目の科目担当者の見直し、確認を行った。

【鍼灸情報センター】

鍼灸情報センターは、鍼灸に関する学術情報を収集し、Web および SNS で社会に向けて発信する活動を行ってきた。戦略的には鍼灸界における本学のステータスの維持、および本学鍼灸学科に対する保護者や進路担当高校教員の認知度と信頼度の向上という意味合いがあった。

2023 年度中に Facebook のフォロワーが100人あまり増加して1331人となり、X (旧Twitter) のフォロワーは60人あまり増加して802人となった。2023 年1月には山下センター長が韓国の国立釜山大学韓医学部において日本の鍼灸事情について講演し、釜山地区3大学の韓医学部関係者と交流を行った。また、日本の2大鍼灸学術賞のひとつである代田賞の実質的な事務局機能を出版部と共に担った。

【入試運営センター】

入試において正確かつ公正な入試運営ができることを目的とし、各入試におけるデータ分析

を行い、今後の入試制度につながる取り組みを行った。特に2024年度実施入試より高等学校における新学習指導要領が変更となるため、新課程に対応した入試制度について検討し構築した。また、遠隔地での入試（岡山市・広島市）においても実施を決定し、遠隔地での受験者が受験しやすい環境の構築について検討し進めている。

【国際交流センター】

国際交流センターは、グローバル化する現代において学生たちの国際的な視野を広げ、学びを深めることを目的とした教職協働組織である。MEEP（Morinomiya English Education Program）では、正課授業の英語科目はもちろん、海外研修の実施、オンライン英会話の提供、TOEIC講座の実施、TOEIC IPテストを学内で年2回（9月と3月）実施している。

TOEIC IPテストに関して、9月は受験者が29名と過去最高人数が受験した。また、初めて800点を超える学生が2名出た。3月は12名と昨年と同程度であった。一昨年度から開始したオンライン英会話を今年度も開講した。規定受講回数をクリアした学生には受講料を返金するシステムとしている。こちらは前期約30名、後期約20名の受講者があった。昨年度より大幅に受講者が増加したのは、業者変更により学生の満足度が改善された結果と考えられる。

2023年度も前年と同じくオーストラリア、メルボルンにあるLa Trobe大学への短期海外研修を実施した。参加学生は19名と過去最高人数であった。これは、コロナ禍が終息しことと、年度初めの新入生・在学生オリエンテーションにてMEEPの周知を行ったことが影響しているものと思われる。研修では医療に特化した英会話の授業を受けた他、現地の学生と交流や、La Trobe大学の施設見学、講義を受けた。さらに、現地の病院見学を行った。特に病院見学は学生の満足度が非常に高かった。また、La Trobe大学の学生と初日に交流したことで、現地の学生と食事や観光などに行く学生も多くいい経験になったと考えられる。その他、8月には連携協定先である韓国三育大学で理学療法を学ぶ学生が本学理学療法学科を訪れ、理学療法学科の教員の研究を紹介し、両大学学生による学術発表も行い、交流を深めることができた。

【校友センター】

校友センターは2022年度4月に新設され、森ノ宮医療学園校友会大学部会の事業計画・運営、予算管理、新規事業立案、校友会本部との連携に関する業務等を業務分掌規程として定めた。

2023年度は、コロナ禍による行動制限の緩和状況に合わせながら、従来型の卒業生交流を目指して事業を企画・遂行した。具体的には、2023年10月の森ノ宮医療大学学術大会の後援、同日のホームカミングデーの企画・運営、2024年2月の理学療法部会主催講習会（兼 3学会合同呼吸療法認定士の認定更新用の講習会）、2024年3月の作業療法部会主催講習会、卒業生表彰、卒業生による祝賀会・謝恩会の支援、附属図書館への寄付、附属鍼灸臨床センターの治療費補助、大学報の発刊（学長室企画課との連携事業）であった。ホームカミングデーは昨年度の成果（卒業生だけで140名超の参加）には及ばなかったが、総勢124名の関係者にご参加いただけた。

予算管理については、校友会本部との調整を円滑に進めることができ、概ね当初の計画どおりに予算を執行することができた。詳細な項目についても統合や廃止等の調整を進めることができ、さらに柔軟な運用が可能となった。

その他、これまでは学科・学年ごとに異なっていた卒業生への情報発信ツールをLINE公式アカウ

ント（認証済みアカウント）に統一した。登録者数は2024年4月現在で430名に留まっているが、今後さらに多くの卒業生から登録してもらえるよう活動し、西日本最大の組織率を誇る卒業生ネットワーク構築を目指す。

【IPEセンター】

IPEセンターは2023年度4月に本学のIPE関連科目の質向上と評価・点検を教職協働で行うための組織として新設された。

2023年度の当センターの大きな実績の一つとして、1年生の前期に担当されている「MBS(morinomiya basic seminar)」、「チーム医療見学実習」の授業内容について抜本的な見直しを図り、初年次から全学科混成チームを形成し、早期に医療に触れるとともにチーム力の重要性を体感できる科目として確立させることができた。また、2年生の後期に担当されている「チーム医療論」については他職種の役割を知るだけでなく、症例を通してそれぞれの職種の視点や患者へのアプローチ方法を理解・経験できる科目となるよう会議で検討を重ねた結果、2024年度より新たな授業内容で実施されることとなった。

本学のIPE教育の集大成として位置付けている「IPW論」についてはJCHO大阪病院附属看護専門学校が次年度より新たに参加することとなり、また「IPW論」と同じような内容で本学の複数学科と大阪医療センター附属看護学校が合同で授業を実施するなど、本学のチーム医療教育の更なる充実を図るため他校とも積極的な交流を行っている。

なお、IPE関連科目の充実を図るだけでなく、2025年度にチーム医療教育の強化をテーマとしたシミュレーションセンターの設置を計画しており、当センターが中心となって申請業務等を進めている。

【附属図書館】

① 情報資源（蔵書や雑誌、データベースなど）の確保

- ・各学科ならびに学生リクエストなどにより購入図書を選定、約2,270冊を購入し、蔵書数は約7万冊（2024.3月末）となった。
- ・前年度よりデータベースの導入に積極的に取り組んでおり、今年度は電子ジャーナル33件、データベース6件と契約した。またデータベースではProQuestをNursing & Allied Health Premium（約1,700タイトル）からHealth & Medical Collection（約4,760タイトル）に変更し、利用の促進を図った。
- ・文献複写依頼についても約1,600件の依頼があった。

② 図書館運営の充実化による利用者満足度の向上

- ・前年度末に入口ゲートの接地および図書館システムの入替を行ったことから、今年度はこれらの運用について充実化をはかった。とくに図書館システムについてはさまざまなコンテンツ（開館案内や新刊資料の掲示など）を利用し、利用者の満足度の向上を図った。
- ・来館者数は51,355名と前年度（50,403名）より増加しており、5,000件以上の貸出があった。また試験期間中は開館時間を拡大しており、今年度も多くの来館者があった。

③ 図書館での研修会およびガイダンス、イベントなどの開催

- ・ProQuestの利用促進を図るため、利用に関する研修会を9月に実施した。
- ・4月～6月にかけて看護学科（90名）、診療放射線学科（180名）、臨床工学科（17名）、助産学専攻科（9名）、大学院（16名）の文献検索に関するガイダンスを実施した。
- ・12月から学科共通科目（解剖学、生理学など）の国家試験問題を取り上げたイベントなどを開催した。
- ・学外利用の促進するため、夏休み期間（8/1～8/24）に近隣の方を対象に図書館を開放したところ、52名の来館があった。また大学祭で学生主催の本のフリーマーケットなどでも多数の来館者があった。
- ・南港北中学ならびに南港南中学の職業体験（各3名）を受け入れた。

【事務局：総務課】

総務課では、2022年度に「大学マスコットキャラクター」に選定した「もりのん」「めでいぐろう」の学内外への浸透を図るべく、オリジナルグッズの作成、販売を推進した。また新型コロナ禍で停滞気味であった人材交流の一環として学校法人常翔学園との合同研修を実施するなど、人材育成に注力した。

さらに2024年度に設置される言語聴覚学科設置に伴う新棟建築計画を主導し、2024年2月に竣工を迎えた他、言語聴覚学科備品購入調整、既存棟の施設設備改善、理学療法学科の新棟移転なども実施した。またセレッソ大阪と共催のサッカースクール、グリーンスクエアの地域住民の方への開放など地域貢献活動も行った。

【事務局：情報システム課】

情報システム課では、2020年度以降WEB 活用推進プロジェクト：「green innovation」を推進しており、引き続きホームページや学生用WEBシステム上で情報設備やMORIパソコン、学生サービス案内などの情報発信を行った。

システム面では、保証人向けに学務システム「MORIPA」の新機能である「保証人WEB掲示板」の運用を開始、満足度の向上を図った。教職員向けシステムにおいては学外から学内ファイルサーバーへWeb経由でアクセス可能な環境を導入、利用ルールを取り決め運用開始した。加えてワークフローシステムの更改を実施、不測の事態に備え必要に応じて学外からのアクセスを可能にする構成で構築した。

またネットワーク面では、2025年度に無線システム全面更改を実施予定であり、BYODを推進から必携へ切り替える為の基盤整備を計画している。新棟(葵棟)建設についても、無線システム全面更改を見据えた無線ネットワークの設計、導入を実施した。

【事務局：教務課】

2024年度に開設される総合リハビリテーション学部言語聴覚学科について、既存学科等と同様に教育・学修環境の充実のための事前準備業務に従事した。また、教務課が主となり自己点検評価・FSD委員会の中で教育方法改善研究部会を立ち上げ、定期的にワーキングを実施し、授業評価アンケート及び公開授業の実施方法やアンケート項目の見直しを行った。その結果、2024年度から授業評価アンケート及び公開授業が新たな形式で実施されることとなった。

カリキュラム関連の業務については、2023年度より新たに設置されたIPEセンターと連携し、IPE関連科目である「MBS(Morinomiya Basic Seminar)」、「チーム医療見学実習」、「チーム医療論」、「IPW 論」の更なる充実を図るため、シラバスの内容や実施方法に関して教職協働で点検・評価を行った。また、IPEセンターとの連携事業として、2025年度にシミュレーションセンターを設置するために、学内調整や申請準備に関する業務を行った。

【事務局：学生支援課】

① 奨学金

近畿圏外からの入学者をサポートするために新たな奨学金制度である「ひとり住まい準備奨学金」や「遠隔地出身学生支援奨学金」の制度について構築した。また、既存の奨学金においても現行に合わせて大幅に改定を行うことで、在学生の修学を支援する体制を整備した。また、昨今の経済状況を鑑みて学生支援機構の奨学金においても新たな基準（区分）が設定されたが、柔軟に対応することで学生への修学支援を行った。

② 学生会

2022年度に学生会本部と各委員会（クラス委員会、部・公認サークル運営委員会、大学祭実行委員会）の連携を目的として学生会組織を再編したが、2年目として運営することで活動を軌道に乗せる1年となった。その結果、学生会主催のイベント（リーダーズ研修・フレッシュマン研修・大学祭・交流会・体育祭・勉強会）においても積極的な提案がなされた。特に新生歓迎会においては約8割程度の新生が参加し、過去最大の人数が参加することとなった。フレッシュマン研修ではなかやまきんにくん氏による講演会を開催した。また、大学祭においては開学以来初めてとなる2日間開催を行うなどし、過去最大の規模で実施することとなった。

③ 課外活動

新たに新生オリエンテーション期間中に部活動紹介、個別相談会を開催するなど積極的に課外活動を宣伝し、課題のひとつであった「課外活動」の学生満足度を向上させた。

④ 健康管理

健康管理センターと連携し、学生の健康管理、健康増進、感染症対策、メンタルヘルスケア、臨地臨床実習関連業務等に取り組んだ。昨年度に続き感染症予防に関する対策等の指導ならびに情報発信、情報収集等を実施し、感染症予防と学生教職員の安全確保に努めた。感染症拡大予防の一環として4種の小児感染症ワクチンをはじめ、B型肝炎ワクチンや、インフルエンザ予防接種も大阪ベイクリニックと連携し学生に実施した。

【事務局：会計課】

会計課では、放射線学科が4学年揃う卒業年度を迎え、在学生・教員・職員の人数の増加への対応や、さらに2024年度に新設される言語聴覚学科への準備を行った。3学部制となり学部ごとに多種多様な研究活動や教育活動が活発となっており、その経費精算処理を正確かつ迅速に対応できるよう業務の改善に取り組んだ。また、財務会計室と連携を行いながらインボイス制度や電子帳簿保存法への対応や、予算執行管理において実績把握資料の充実を図った。

学費関連の対応としては、口座振替と銀行振込の2種類の納付方法への対応や、休学者や復学者への学費納入スケジュールの見直しを行った。また、引き続き学生支援課と連携を取りながら国の修学支援新制度や奨学金などの制度を活用して、学納金納入が困難となった学生への対応を行った。

【事務局：入試課】

入試課では入試運営センターと連携し、入試について全学的に協議し改革をおこなった。2023年度においては一般選抜前期にC日程を追加し、一般選抜前期において3日間連続で実施することで受験生が受験しやすい環境を調えた。また、2024年度実施入試より高等学校における新学習指導要領が変更となるため、新課程に対応した入試制度について検討し出題科目等に

おいて外部へ公表するに至った。さらに遠隔地での入試（岡山市・広島市）においても実施を決定し、遠隔地での受験者が受験しやすい環境の構築について検討し進めている。今後はより詳細な入試の内容や制度について体制を整えていく。

【事務局：キャリア支援課】

1. 就職

休日のカウンセリング（履歴書添削・模擬面接等）対応を58枠に増やし、長期実習中の学生がスムーズに就職活動できるよう支援した。

初めて、SPI対策講座（全11回）を対面・オンデマンドの併用型、小論文対策講座をオンデマンドで実施し、学生が自身のタイミングで学修できるよう体制を整えた。

法人14件（病院77件）・病院34件、計111件の人事採用部門やコ・メディカル部門の技師長を訪問、採用傾向などをヒアリングし学生の受験対策に役立てた。

MORIPA上に就職ポートフォリオを構築し、学科協力の元理学療法学科3年生14名を対象にプレ導入した。

<学科別進路決定状況（2024年3月末時点）>

看護学科：79名／80名（98.8%）

理学療法学科：55名／58名（94.8%）

作業療法学科：44名／44名（100%）

臨床検査学科：54名／58名（93.1%）

臨床工学科：54名／59名（91.5%）

診療放射線学科：64名／72名（88.9%）

鍼灸学科：50名／59名（84.7%）

助産学専攻科：8名／8名（100%）

合計：408名／438名（93.2%）

※2023年度卒業生（9月末・3月末卒業生を含む）の進路決定状況

※文部科学省の規定に準じ、講師登録者は進路決定者に含まない

進路未決定者（30名）は、アルバイト・パート予定者、講師登録者、留学予定者、求職者、国家試験不合格者のいずれかであるが、そのうち3月末時点の求職者数は7名であることから、今年度は全体的に早期に進路を決定することが出来たと言える。

※求職者数（3月末時点）：理学2名、検査1名、工学1名、放射線2名、鍼灸1名

就職決定者数：399名

キャリアセンター利用者数：302名（75.7%）

第1希望決定者数：316名（79.2%）

実習施設就職者数：172名／349名（49.3%） ※鍼灸学科を除く

2. 教育後援会

教育後援会総会時に新たなイベントとしてランチ試食会を開催、講演会に尾木直樹氏を招聘し、総会参加率前年比219%を達成した。また学科協力の元、例年通り学科懇談会、個別相談会を実施した。

※参加者数：ランチ試食会120名、講演会125名

【学長室：企画課】

企画課では、2024年4月に開設する言語聴覚学科の設置届出と指定申請を行った。また、理学療法学科・作業療法学科・診療放射線学科においてはカリキュラム変更の申請を行った。

社会連携活動としては、国立病院機構大阪医療センター、労働者健康安全機構大阪労災病院との相互連携協定を締結した。今後保健医療、医学分野における共同研究や相互の人的交流を推進していく。また、地域連携の主幹部署としてシニア世代を対象としてNPO法人 大阪区民カレッジからの依頼により、6月度の住之江・住吉校の授業を中谷謙教授が担当し、大変好評であった。また、6月29日に第1回市民公開講座「コロナ禍を振り返り、これからの考える」を、10月26日に第2回市民公開講座「口から元気になろうー話す・食べるから健康長寿を「伸ばす」ー」を開催した。第1回では、コロナ関連ニュース等でメディアに多数ご出演の大阪大学医学部感染制御学の忽那賢志教授にご登壇いただいた。2023年度は授業の一環として学生も多数参加があり、参加者数は第1回は167名、第2回は148名となった。そのほか南港ポートタウン(太陽の町)において、看護・理学・作業の3学科の教員が中心となって、これまで「もりもりまちの保健室」として健康相談や血圧測定等を行っていたが、それをバージョンアップし、「もりもり健康長寿サロン」として7月から新たに実施した。また、2025年開催の大阪・関西万博に向けた咲洲地域一体での機運醸成の取組である「咲洲プレ万博」の主催者の一員として、「ATCOSAKA MIRAI EXPO」や「咲洲こどもEXPO 2023」への出展を行った。特に「咲洲こどもEXPO 2023」は本学学祭と同日開催し、本学全体がイベント会場となったことで、例年より多くの参加者を動員することができた。また、大阪・関西万博への取り組みとしては、本学学生が万博を通じて様々な経験を積めるプログラムを企画した。具体的には5大学（本学、関西大学、甲南女子大学、武庫川女子大学、京都光華女子大学）合同による、大阪・関西万博TEAM EXPO 2025テーマセッション「学生×ウェルビーイング プレ会議」を、関西大学梅田キャンパスにて2月15日と3月12日に行った。そのほか、パビリオンへの出展や、ボランティア派遣について検討した。

新規の取り組みとしては、「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」に参画し、大阪大学を中心とした6大学による「地域に生き未来に繋ぐ高度がん医療人の養成」プログラムの取り組みとして、本学修士課程に在籍する学生を対象として新たなインテンシブコースの開講を目指すこととなった。

2024年3月には保健医療学研究科インテンシブコース開設記念シンポジウムとして『「がんと共に生きる時代」～リハビリテーション、鍼灸からがん医療への新しいアプローチ～』を実施し

た。また大学ブランディング広報として、TVCMの製作を行った。学生や教員が出演し、テーマソングを書きおろしてもらったシンガーソングライターの竹内アンナさんにも出演いただいた。関西圏を中心としたキー局にて6月よりテレビ放映をしたほか、ABEMAやYouTubeといった動画配信サイトでのWEB広告も行い、梅田駅周辺での大型ビジョンでも放映した。加えて、昨年度から引き続き一般・メディアに向けたプレスリリースを行い、22本の記事を発信した。また卒業生や連携協定先等の多様なステークホルダーに対して、本学で1年間に行われた様々な行事や研究活動等を知っていただけるよう大学広報紙「Beyond」を創刊した。

そのほか、「大学コンソーシアム大阪」を母体とする「大阪府地域連携プラットフォーム」に参画したほか、IR活動としては、GPAや各種テストの成績等の教学データの分析を行った。

また、企画課では学長が推進する事業の円滑な運営に注力し、各種プロジェクトやワーキンググループ、学長会議の運営事務、教育・研究に係る学長事業推進費の適正管理「森ノ宮医療大学 第3回 荻原賞」表彰に伴う公募、選考委員会や表彰式の運営等を行った。

【学長室：広報課】

広報課では、学生募集に関わる各ステークホルダー（高校生、受験生、保護者、高校・塾・予備校関係等）に対して、医療系総合大学だからできる取り組み、情報発信を強化しつつ、本学認知度の向上、さらには医療分野や本学への理解、興味・関心が高まる広報活動に注力した。特に、2024年度開設の新学科「言語聴覚学科」における認知浸透と魅力発信には強化を図った。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことに伴い、対面型の各種イベントを精力的に開催し、オープンキャンパスでは通常のプログラム内容に加え、総合リハビリテーション学部、医療技術学部の特別プログラムを実施した。オープンキャンパス以外にも、平日の大学見学会（放課後大学見学会）を毎月開催したほか、入試対策講座、医療の仕事体験フェスティバルなども実施し、イベントの総参加者数は2022年度を上回る結果となった。また、新たな取り組みとして、高校2年生を対象とした本学独自の模試を行い、約500名の多くの受験があった。WEB関連では、本学教育の大きな特徴である「チーム医療教育」や「学修支援センター(MANABEL)」のコンテンツを拡充し、SNSにおいては新たにTwitter（現：X）での情報発信を（2023年3月末より）スタートさせた。加えて、高校教員向けの動画配信も新たに試みた。そのほか、2022年度までと同様にステークホルダー別に制作した各種発刊物、WEBサイトやSNS、さらには高校訪問や高校ガイダンス、進学相談会を通して情報発信を定期的に行った。

【主な広報活動に関するデータ】

- ・年間資料請求者数：32,043件（前年比101.0%）
- ・年間イベント来校者数：6,857名（前年比 104.9%）
- ・志願者数：5,362名（前年比 88.2%）

(2) 事業成果の概要

①在学学生数・定員充足率・退学者数等の推移

学生数		2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1
看護学科	1年生	90	91	90	92
	2年生	90	90	91	88
	3年生	85	87	85	86
	4年生	92	90	91	91
	計	357	358	357	357
定員		360	360	360	360
定員充足率		99.2%	99.4%	99.2%	99.2%
退学者数		6	7	12	
退学率		1.7%	2.0%	3.4%	

学生数		2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1
理学療法 学科	1年生	70	70	70	70
	2年生	70	67	70	70
	3年生	69	67	66	69
	4年生	70	76	70	75
	計	279	280	276	284
定員		280	280	280	280
定員充足率		99.6%	100.0%	98.6%	101.4%
退学者数		7	3	4	
退学率		2.5%	1.1%	1.4%	

学生数		2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1
作業療法 学科	1年生	45	50	50	48
	2年生	49	44	48	49
	3年生	48	47	43	47
	4年生	48	48	48	42
	計	190	189	189	186
定員		160	160	160	160
定員充足率		118.8%	118.1%	118.1%	116.3%
退学者数		6	7	7	
退学率		3.2%	3.7%	3.7%	

学生数		2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1
言語聴覚 学科	1年生				41
	2年生				
	3年生				
	4年生				
	計				41
定員					40
定員充足率					102.5%
退学者数					
退学率					

学生数		2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1
臨床検査 学科	1年生	72	75	70	72
	2年生	69	71	74	70
	3年生	68	68	69	74
	4年生	69	68	72	82
	計	278	282	285	298
定員		260	270	280	280
定員充足率		106.9%	104.4%	101.8%	106.4%
退学者数		4	4	1	
退学率		1.4%	1.4%	0.4%	

学生数		2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1
臨床工学科	1年生	71	73	61	71
	2年生	62	68	70	59
	3年生	68	58	59	66
	4年生	66	69	66	60
	計	267	268	256	256
定員		240	240	240	240
定員充足率		111.3%	111.7%	106.7%	106.7%
退学者数		9	13	12	
退学率		3.4%	4.9%	4.7%	

学生数		2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1
診療放射線 学科	1年生	93	90	87	90
	2年生	89	89	87	87
	3年生		88	87	87
	4年生			87	99
	計	182	267	348	363
定員		160	240	320	320
定員充足率		113.8%	111.3%	108.8%	113.4%
退学者数		5	6	3	
退学率		2.7%	2.2%	0.9%	

学生数		2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1
鍼灸学科	1年生	59	70	64	73
	2年生	65	56	67	62
	3年生	60	64	54	65
	4年生	66	68	68	61
	計	250	258	253	261
定員		240	240	240	240
定員充足率		104.2%	107.5%	105.4%	108.8%
退学者数		7	12	6	
退学率		2.8%	4.7%	2.4%	

学生数		2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1
学部計	1年生	500	519	492	557
	2年生	494	485	507	485
	3年生	398	479	463	494
	4年生	411	419	502	510
	計	1803	1902	1964	2046
定員		1700	1790	1880	1920
定員充足率		106.1%	106.3%	104.7%	106.6%
退学者数		44	52	45	
退学率		2.4%	2.7%	2.3%	

学生数		2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1
大学院 修士課程 (保健医療学 専攻)	1年生	8	4	9	6
	2年生	8	10	6	9
	計	16	14	15	15
定員		12	12	12	12
定員充足率		133.3%	116.7%	125.0%	125.0%
退学者数		0	0	0	
退学率		0.0%	0.0%	0.0%	

学生数		2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1
大学院 修士課程/ 博士前期課程 (看護学専攻)	1年生	3	6	7	2
	2年生	2	2	6	7
	計	5	8	13	9
定員		12	12	15	18
定員充足率		41.7%	66.7%	86.7%	50.0%
退学者数		1	0	0	
退学率		20.0%	0.0%	0.0%	

学生数		2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1
大学院 博士後期課程(医 療科学 専攻)	1年生	3	2	1	6
	2年生	1	3	2	1
	3年生	2	1	3	1
	計	6	6	6	11
定員		6	6	6	6
定員充足率		100.0%	100.0%	100.0%	183.3%
退学者数		0	0	0	
退学率		0.0%	0.0%	0.0%	

学生数		2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1
大学院 博士後期課程 (看護学専攻)	1 年生		2	1	1
	2 年生			2	1
	3 年生				2
	計		2	3	4
定員			2	4	6
定員充足率			100.0%	75.0%	66.7%
退学者数			0	0	
退学率			0.0%	0.0%	

学生数		2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1
助産学専攻科	1 年生	11	10	9	8
	計	11	10	9	8
定員		10	10	10	10
定員充足率		110.0%	100.0%	90.0%	80.0%
退学者数		2	3	1	
退学率		18.2%	30.0%	11.1%	

②2024年度 看護学部/総合リハビリテーション学部/医療技術学部 入学試験受験者数

看護学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜A日程 【学習成果重視型】	70	7	77	70	7	77	14	0	14
総合型選抜B日程 【面接併用型】	206	14	220	199	13	212	40	0	40
総合型選抜B日程 【学力重視型】 均等配点方式	272	22	294	263	20	283	53	0	53
総合型選抜B日程 【学力重視型】 高得点配点方式	272	0	272	263	0	263	56	0	56
一般選抜前期 A日程 3科目型	57	7	64	56	7	63	16	0	16
一般選抜前期 A日程 2科目型	81	1	82	79	1	80	21	0	21
一般選抜前期 B日程 3科目型	26	3	29	24	3	27	6	0	6
一般選抜前期 日程 2科目型	33	0	33	31	0	31	8	0	8
一般選抜前期 C日程 3科目型	39	1	40	36	1	37	9	0	9
一般選抜前期 C日程 2科目型	49	0	49	46	0	46	12	0	12
一般選抜 後期	48	3	51	47	3	50	20	0	20
大学入学共通テスト 利用選抜 【学力重視型】	31	5	36	31	5	36	5	0	5
大学入学共通テスト 利用選抜 【面接併用型】	14	1	15	14	1	15	2	0	2
社会人選抜 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜 II期	1	0	1	1	0	1	0	0	0
指定校推薦選抜	10	0	10	10	0	10	10	0	10
計	1209	64	1273	1170	61	1231	272	0	272

理学療法学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜A日程 【学習成果重視型】	53	33	86	53	33	86	10	0	10
総合型選抜B日程 【面接併用型】	90	46	136	84	43	127	22	0	22
総合型選抜B日程 【学力重視型】 均等配点方式	123	59	182	119	57	176	31	0	31
総合型選抜B日程 【学力重視型】 高得点配点方式	123	0	123	119	0	119	31	0	31
一般選抜前期 A日程 3科目型	21	10	31	21	10	31	7	0	7
一般選抜前期 A日程 2科目型	33	7	40	33	7	40	11	0	11
一般選抜前期 B日程 3科目型	12	5	17	12	4	16	5	0	5

一般選抜前期 日程 2科目型	19	0	19	18	0	18	6	0	6
一般選抜前期 C日程 3科目型	12	8	20	12	7	19	5	0	5
一般選抜前期 C日程 2科目型	13	5	18	13	4	17	5	0	5
一般選抜 後期	12	10	22	12	10	22	4	0	4
大学入学共通テスト 利用選抜 【学力重視型】	20	6	26	20	6	26	6	0	6
大学入学共通テスト 利用選抜 【面接併用型】	1	1	2	1	1	2	1	0	1
社会人選抜 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	14	0	14	14	0	14	14	0	14
計	546	190	736	531	182	713	158	0	158

作業療法学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜A日程 【学習成果重視型】	18	23	41	18	23	41	16	10	26
総合型選抜B日程 【面接併用型】	15	46	61	14	44	58	12	4	16
総合型選抜B日程 【学力重視型】 均等配点方式	20	58	78	19	54	73	16	5	21
総合型選抜B日程 【学力重視型】 高得点配点方式	20	0	20	19	0	19	16	0	16
一般選抜前期 A日程 3科目型	7	12	19	7	12	19	4	3	7
一般選抜前期 A日程 2科目型	8	4	12	8	4	12	4	0	4
一般選抜前期 B日程 3科目型	2	6	8	2	5	7	1	2	3
一般選抜前期 日程 2科目型	2	3	5	2	2	4	1	0	1
一般選抜前期 C日程 3科目型	0	4	4	0	3	3	0	1	1
一般選抜前期 C日程 2科目型	0	3	3	0	2	2	0	0	0
一般選抜 後期	2	9	11	2	8	10	1	4	5
大学入学共通テスト 利用選抜 【学力重視型】	4	6	10	4	6	10	2	0	2
大学入学共通テスト 利用選抜 【面接併用型】	0	1	1	0	1	1	0	0	0
社会人選抜 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	8	0	8	8	0	8	8	0	8

計	106	175	281	103	164	267	81	29	110
言語聴覚学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜A日程 【学習成果重視型】	17	25	42	17	25	42	16	10	26
総合型選抜B日程 【面接併用型】	7	37	44	7	35	42	6	13	19
総合型選抜B日程 【学力重視型】 均等配点方式	10	48	58	10	45	55	10	14	24
総合型選抜B日程 【学力重視型】 高得点配点方式	10	0	10	10	0	10	9	0	9
一般選抜前期 A日程 3科目型	3	9	12	3	9	12	3	2	5
一般選抜前期 A日程 2科目型	3	2	5	3	2	5	3	0	3
一般選抜前期 B日程 3科目型	1	5	6	1	5	6	1	3	4
一般選抜前期 日程 2科目型	1	1	2	1	1	2	1	0	1
一般選抜前期 C日程 3科目型	1	4	5	1	4	5	1	1	2
一般選抜前期 C日程 2科目型	2	0	2	2	0	2	2	0	2
一般選抜 後期	2	8	10	2	7	9	2	3	5
大学入学共通テスト 利用選抜 【学力重視型】	3	7	10	3	7	10	3	2	5
大学入学共通テスト 利用選抜 【面接併用型】	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	2	0	2	2	0	2	2	0	2
計	62	146	208	62	140	202	59	48	107

臨床検査学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜A日程 【学習成果重視型】	60	53	113	59	52	111	23	0	23
総合型選抜B日程 【面接併用型】	66	85	151	62	81	143	21	0	21
総合型選抜B日程 【学力重視型】 均等配点方式	83	95	178	78	92	170	25	0	25
総合型選抜B日程 【学力重視型】 高得点配点方式	83	0	83	78	0	78	25	0	25
一般選抜前期 A日程 3科目型	31	31	62	31	30	61	11	0	11
一般選抜前期 A日程 2科目型	40	12	52	40	12	52	13	0	13
一般選抜前期 B日程 3科目型	12	12	24	12	11	23	4	0	4

一般選抜前期 日程 2科目型	17	7	24	17	6	23	6	0	6
一般選抜前期 C日程 3科目型	12	9	21	11	9	20	3	0	3
一般選抜前期 C日程 2科目型	14	4	18	13	4	17	4	0	4
一般選抜 後期	18	18	36	16	17	33	7	0	7
大学入学共通テスト 利用選抜 【学力重視型】	20	24	44	20	24	44	5	0	5
大学入学共通テスト 利用選抜 【面接併用型】	6	3	9	6	3	9	4	0	4
社会人選抜 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	5	0	5	5	0	5	5	0	5
計	467	353	820	448	341	789	156	0	156

臨床工学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜A日程 【学習成果重視型】	33	65	98	33	63	96	29	9	38
総合型選抜B日程 【面接併用型】	18	74	92	18	69	87	13	11	24
総合型選抜B日程 【学力重視型】 均等配点方式	25	84	109	25	80	105	18	10	28
総合型選抜B日程 【学力重視型】 高得点配点方式	25	0	25	25	0	25	17	0	17
一般選抜前期 A日程 3科目型	5	32	37	5	31	36	3	2	5
一般選抜前期 A日程 2科目型	5	10	15	5	10	15	3	0	3
一般選抜前期 B日程 3科目型	4	10	14	4	9	13	3	3	6
一般選抜前期 日程 2科目型	7	2	9	7	1	8	6	0	6
一般選抜前期 C日程 3科目型	0	8	8	0	8	8	0	2	2
一般選抜前期 C日程 2科目型	2	2	4	2	2	4	0	0	0
一般選抜 後期	1	16	17	1	15	16	1	0	1
大学入学共通テスト 利用選抜 【学力重視型】	3	19	22	3	19	22	2	0	2
大学入学共通テスト 利用選抜 【面接併用型】	1	4	5	1	4	5	0	0	0
社会人選抜 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	8	0	8	8	0	8	8	0	8
計	137	326	463	137	311	448	103	37	140

診療放射線学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜A日程 【学習成果重視型】	146	17	163	145	16	161	14	0	14
総合型選抜B日程 【面接併用型】	196	36	232	189	34	223	25	0	25
総合型選抜B日程 【学力重視型】 均等配点方式	215	48	263	205	44	249	29	0	29
総合型選抜B日程 【学力重視型】 高得点配点方式	215	0	215	205	0	205	29	0	29
一般選抜前期 A日程 3科目型	76	14	90	72	14	86	19	0	19
一般選抜前期 A日程 2科目型	104	2	106	100	2	102	25	0	25
一般選抜前期 B日程 3科目型	32	6	38	30	6	36	8	0	8
一般選抜前期 日程 2科目型	42	1	43	39	1	40	10	0	10
一般選抜前期 C日程 3科目型	23	9	32	20	8	28	5	0	5
一般選抜前期 C日程 2科目型	30	2	32	27	1	28	7	0	7
一般選抜 後期	43	11	54	41	10	51	2	0	2
大学入学共通テスト 利用選抜 【学力重視型】	61	11	72	61	11	72	7	0	7
大学入学共通テスト 利用選抜 【面接併用型】	7	2	9	7	2	9	1	0	1
社会人選抜 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	8	0	8	8	0	8	8	0	8
計	1198	159	1357	1149	149	1298	189	0	189

鍼灸学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜A日程 【学習成果重視型】	30	18	48	30	18	48	27	6	33
総合型選抜A日程 【スポーツ実績重視型】	13	0	13	13	0	13	13	0	13
総合型選抜B日程 【面接併用型】	6	32	38	6	28	34	3	1	4
総合型選抜B日程 【学力重視型】 均等配点方式	10	35	45	10	32	42	5	2	7
総合型選抜B日程 【学力重視型】 高得点配点方式	10	0	10	10	0	10	5	0	5
一般選抜前期 A日程 3科目型	6	7	13	6	7	13	2	0	2

一般選抜前期 A日程 2科目型	6	0	6	6	0	6	2	0	2
一般選抜前期 B日程 3科目型	0	6	6	0	6	6	0	0	0
一般選抜前期 日程 2科目型	2	2	4	2	2	4	2	0	2
一般選抜前期 C日程 3科目型	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般選抜前期 C日程 2科目型	1	1	2	1	1	2	0	0	0
一般選抜 後期	3	8	11	2	8	10	0	0	0
大学入学共通テスト 利用選抜 【学力重視型】	0	5	5	0	5	5	0	0	0
大学入学共通テスト 利用選抜 【面接併用型】	0	1	1	0	1	1	0	0	0
社会人選抜 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	21	0	21	21	0	21	21	0	21
計	108	115	223	107	108	215	80	9	89

③ 2024年度 大学院入学試験受験者数

保健医療学専攻 【修士課程】	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第 1 次募集	2	2	2	2
第 2 次募集	4	4	4	4
第 3 次募集	1	1	0	0
計	7	7	6	6

※第 3 次募集については定員に達したため、実施せず

看護学専攻 【博士前期課程】	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第 1 次募集	0	0	0	0
第 2 次募集	2	2	2	2
第 3 次募集	0	0	0	0
計	2	2	2	2

医療科学専攻 【博士後期課程】	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第 1 次募集	2	2	2	2
第 2 次募集	4	4	4	4
計	6	6	6	6

看護学専攻 【博士後期課程】	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第 1 次募集	1	1	1	1
第 2 次募集	0	0	0	0
計	1	1	1	1

④ 2024年度 助産学専攻科入学試験受験者数

助産学専攻科	志願者数	受験者数	合格者	入学者
一般入試Ⅰ	16	16	2	2
推薦入試	1	1	1	1
学内推薦入試	4	4	4	4
一般入試Ⅱ	4	3	1	1
計	25	24	8	8

⑤ 国家試験合格率

■看護師 第113回

全体 受験者数：63,301人 合格者数：55,557人 合格率：87.8%

新卒 受験者数：57,860人 合格者数：53,903人 合格率：93.2%

本学新卒 受験者数：80人 合格者数：80人 合格率：100%

■保健師 第110回

全体 受験者数：7,795人 合格者数：7,456人 合格率：95.7%

新卒 受験者数：7,387人 合格者数：7,218人 合格率：97.7%

本学新卒 受験者数：10人 合格者数：10人 合格率：100%

■助産師 第107回

全体 受験者数：2,151人 合格者数：2,125人 合格率：98.8%

新卒 受験者数：2,063人 合格者数：2,049人 合格率：99.3%

本学新卒 受験者数：8人 合格者数：8人 合格率：100%

■理学療法士 第59回

全体 受験者数：12,629人 合格者数：11,266人 合格率：89.2%

新卒 受験者数：11,408人 合格者数：10,858人 合格率：95.2%

本学新卒 受験者数：58人 合格者数：58人 合格率：100%

■作業療法士 第59回

全体 受験者数：5,736人 合格者数：4,822人 合格率：84.1%

新卒 受験者数：5,019人 合格者数：4,583人 合格率：91.3%

本学新卒 受験者数：44人 合格者数：44人 合格率：100%

■臨床検査技師 第70回

全体 受験者数：4,946人 合格者数：3,800人 合格率：76.8%

新卒 受験者数：4,051人 合格者数：3,565人 合格率：88.0%

本学新卒 受験者数：55人 合格者数：54人 合格率：98.2%

■臨床工学技士 第37回

全体 受験者数：2,630人 合格者数：2,090人 合格率：79.5%

新卒 受験者数：2,319人 合格者数：2,039人 合格率：87.9%

本学新卒 受験者数：55人 合格者数：54人 合格率：98.2%

■診療放射線技師 第76回

全体 受験者数：3,565人 合格者数：2,834人 合格率：79.5%

新卒 受験者数：3,208人 合格者数：2,767人 合格率：86.3%

本学新卒 受験者数：72人 合格者数：66人 合格率：91.7%

■はり師 第32回

全体 受験者数： 4,176人 合格者数： 2,892人 合格率： 69.3%

新卒 受験者数： 3,213人 合格者数： 2,756人 合格率： 85.8%

本学新卒 受験者数： 55人 合格者数： 52人 合格率： 94.5%

■きゅう師 第32回

全体 受験者数： 4,111人 合格者数： 2,887人 合格率： 70.2%

新卒 受験者数： 3,213人 合格者数： 2,770人 合格率： 86.2%

本学新卒 受験者数： 55人 合格者数： 53人 合格率： 96.4%

⑥ 職種別求人件数

本学宛にいただいた職種別の求人件数は、以下のとおりである。

職種	件数
看護師	1034
保健師	157
助産師	115
理学療法士	1765
作業療法士	1668
臨床検査技師	577
臨床工学技士	406
診療放射線技師	463
はり・きゅう師	387
その他医療従事者	1369
福祉関係(介護職)	1073
教員	270
事務職	3745
営業職	4733
その他	7020
総計	24782

<有効求人倍率について>

学科別の求人倍率は、全国の大学卒業予定者向けの平均求人倍率を大きく上回る結果となった。

※参考数値2023年度大学卒業予定者の求人倍率全国平均 1.71 倍 (リクルートワークス社調べ)

	看護学科	理学療法学科	作業療法学科	臨床検査学科	臨床工学科	診療放射線学科	鍼灸学科
求人件数 (件)	871	1073	1013	352	273	297	285
求職者数 (人数)	76	55	44	57	57	70	57
求人倍率 (倍)	11.46	19.51	23.02	6.18	4.79	4.24	5.00

⑦ 学修支援センター主催事業

2023 年度 ステップアップ講座 開催実績

	【VODコンテンツ】タイトル	学科
全6回	医用機器安全管理学	臨床工学
全9回	医用工学	臨床工学
全28回	人体の機能	臨床工学
全5回	医用機器学基礎	臨床工学
全11回	人工呼吸装置学	臨床工学

	【対面講座】日時	対象学科/担当	延参加者数
全6回	物理/数学リメディアル	臨工/佐久間	124名
全7回	解剖学講座	放射/朝倉	301名
全5回	解剖学/生理学講座	理学・作業/朝倉	79名
全4回	数学リメディアル	放射/佐久間	157名
全3回	数学リメディアル	放射/大橋	161名
全5回	専門科目	放射/垣本・山本・大橋	249名
全5回	医用画像の解剖学	放射/星野・大橋	74名
全4回	解剖学/生理学講座	臨検/朝倉	116名
全7回	解剖学/運動学	作業/朝倉	7名
全7回	解剖学/運動学	理学/朝倉	40名
全4回	学生生活のサポート	臨検/小林(彩)	66名
全5回	検査総論復習	臨検/小林(渉)	79名
全5回	微生物学実習に必要な知識の整理	臨検/松尾(明)	338名
全4回	医用機器安全	臨工/布江田	102名
全4回	医用治療機器	臨工/布江田	36名
全3回	体外循環関連	臨工/加納	101名
全5回	体外循環関連	臨工/加納	48名
全3回	医用機器安全管理学分野 補講	臨工/布江田	94名
全9回	臨床医学概論、医用治療機器、医用機器安全	臨工/布江田	9名
全15回	生体機能代行技術特講 血液浄化関連分野 補講	臨工/辻	494名
全3回	生体機能代行技術特講 体外循環	臨工/加納	101名
全1回	関連臨床医学特講 麻酔/ICU/救命救急	臨工/加納	20名
全3回	電気工学1/2 補講	臨工/原	46名
全9回	医用生体工学 物性・材料・機械	臨工/稲田	238名
全1回	体外循環補講	臨工/加納	23名
全1回	関連臨床医学補講	臨工/加納	23名
全3回	臨床医学総論、関連臨床医学 補講	臨工/加納	49名
全2回	体外循環補講	臨工/加納	24名
全3回	医用機器学特講 医用治療機器学	臨工/中村	102名
全2回	生体機能代行技術特講 補助循環	臨工/中村	66名
全2回	生体機能代行装置学特講 人工呼吸	臨工/藤江	52名
全2回	医用機器学特講 生体計測装置学	臨工/大久保	68名
全5回	情報処理工学	臨工/中沢	94名
全6回	ME2種対策講座	臨工/荒木・井上・濱洲	53名 + α

⑧研究業績

<英文>

理学療法学科

- Fukumoto Y, Tsuji Y, Kakuda A, Hori R, Kudo S. Non-invasive evaluation of autonomic responses in patients with rotator cuff tear-related nocturnal pain. *J Phys Ther Sci.* 2024; 36(3):111-116.
- Noda I, Fukumoto Y, Kitano M, Kudo S. Characteristics of ulnar neuropathy in baseball players: Focusing on the entrapment point of the ulnar nerve and valgus instability. *Shoulder Elbow.* 2024;16(1 Suppl):35-41.
- Tsutsumi M, Saiki A, Yamaguchi I, Nimura A, Utsunomiya H, Akita K, Kudo S. In vivo interrelationships between the gluteus minimus and hip joint capsule in the hip internal rotation position with flexion. *BMC Musculoskelet Disord.* 2024; 25(1):87.
- Kudo S, Hatanaka M, Kanazawa S, Hirakawa K, Hara S, Tsutsumi M. Effects of short foot exercises with ultrasound bio-feedback on motor learning and foot alignment: A double blinded randomized control trial. *J Back Musculoskelet Rehabil.* 2023. Online ahead of print.
- Kawanishi K, Fukuda D, Miyashita T, Kitagawa T, Niwa H, Okuno T, Kinoshita T, Tsutsumi M, Kudo S. Effects of Compression Intervention on the Thigh Using Elastic Bandage on Lateral Femoral Pain After Trochanteric Fractures: A Multicenter Randomized Controlled Trial. *Gerontol Geriatr Med.* 2023; 9:23337214231214405.
- Kudo S, Miyashita T, Yamamoto A, Katayama S, Takasaki R. The effects of the functional garment on the biomechanics during the single leg drop landing. *J Bodyw Mov Ther.* 2023; 36:142-147.
- Kudo S, Aoyagi T, Kobayashi T, Koshino Y, Edama M. Ultrasound Imaging of Subtalar Joint Instability for Chronic Ankle Instability. *Healthcare (Basel).* 2023; 11(15):2227.
- Tsutsumi M, Nimura A, Tharnmanularp S, Kudo S, Akita K. Posteromedial capsular anatomy of the tibia for consideration of the medial meniscal support structure using a multidimensional analysis. *Sci Rep.* 2023;13(1):12030.
- Kawanishi K, Kakimoto A, Anegawa K, Tsutsumi M, Yamaguchi I, Kudo S. Automatic Identification of Ultrasound Images of the Tibial Nerve in Different Ankle Positions Using Deep Learning. *Sensors (Basel).* 2023;23(10):4855.
- Anegawa K, Kawanishi K, Nakamura M, Izumi M, Tsutsumi M, Kudo S. Tibial nerve dynamics during ankle dorsiflexion: The relationship between stiffness and excursion of the tibial nerve. *J Biomech.* 2023; 155:111646.
- Fukino K, Iida K, Tsutsumi M, Iwanaga J, Akita K. Evaluation of morphological features of palatopharyngeus insertion into the thyroid cartilage. *Anat Sci Int.* 2023 Jul;98(3):448-453.
- Jiamjunyasiri A, Tsutsumi M, Muro S, Akita K. Origin, course, and distribution of the posterior femoral cutaneous nerve and the spatial relationship among its branches. *Anat Sci Int.* 2023 Sep;98(4):540-547.

作業療法学科

- Higashi Y, Kaneda T, Yuri Y, Horimoto T, Somei Y, Hirayama K. Development of toileting behaviour evaluation for Japanese older patients using wheelchairs in a hospital setting: a validation study. *BMC Geriatr.* 2023; 23(1):353.
- Nakamura, M., Yokoi, K., Tanimura, H., & Hwang, E. J. Psychometric Properties of the Japanese Version of the Health Enhancement Lifestyle Profile (HELP-J) Using Rasch Analysis: A Preliminary Study. *Occupational therapy in health care.*2024; Mar.18:1–18.

臨床検査学科

- Kitano M, Kawahata H, Okawa Y, Handa T, Nagamori H, Kitayama Y, Miyashita T, Sakamoto K, Fukumoto Y, Kudo S. Effects of low-intensity pulsed ultrasound on the infrapatellar fat pad in knee osteoarthritis: a randomized, double blind, placebo-controlled trial. *J Phys Ther Sci.* 2023 Mar;35(3):163-169.
- Takeshita H. The deleterious effects of Alzheimer's disease pathology on skeletal muscle. *Vas cog Journal.* 2023; 9, 23-29.

診療放射線学科

- Shinya Imai, Asuka Yamahata, Akihiro Kakimoto, Yasuyuki Kawaji, Tatsuhiro Gotanda, Takuya Akagawa, Hidetoshi Yatake. Evaluation of factors associated with the effectiveness of radiation protection glasses. *Radiation Protection Dosimetry.* 2024; 199(8-9):1002-1006.
- Watanabe S, Kono Y, Kitaguchi S, Kosaka H, Ishii K. Noise reduction performance of a deep learning-based reconstruction in brain computed tomography images acquired with organ-based tube current modulation. *Phys Eng Sci Med* 2023; 46(3): 1153-1162.
- Kuroda K, Kiya K, Matsuzaki S, Takamura H, Otani N, Tomita K, Kawai K, Fujiwara T, Nakai K, Onishi A, Katayama T, Kubo T. Altered actin dynamics is possibly implicated in the inhibition of mechanical stimulation-induced dermal fibroblast differentiation into myofibroblasts. *Exp Dermatol.* 2023 Nov;32(11):2012-2022.

鍼灸学科

- Okawa Y, Ideguchi N, Yamashita H. Relationship between health literacy and attitudes toward acupuncture: A web-based cross-sectional survey with a panel of Japanese residents. *PLoS ONE.* 2023; 18(10): e0292729.
- Oda H, Fujibayashi M, Kume D, Matsumoto N, Nishiwaki M. Acute effects of low-intensity one-legged electrical muscle stimulation on arterial stiffness in experimental and control limbs. *Sci Rep.* 2024 Mar 20;14(1):6658.

大学院

- ・ Konda S, Ishibashi T, Tamaki M, Tomita T. A preoperative simulation of medial open-wedge high tibial osteotomy for predicting postoperative realignment. *Front Bioeng Biotechnol.* 2023; 1278912.
- ・ Ishibashi T, Konda S, Tamaki M, Okada S, Tomita T. Tibial morphology of symptomatic osteoarthritic knees varies according to location: a retrospective observational study in Japanese patients. *Sci Rep.* 2024 Feb 8;14(1):3250.
- ・ Ishibashi T, Tomita T, Tamaki M, Fujito T, Okada S. Total knee arthroplasty without reduction of the patella for Genu Valgum with permanent dislocation of the patella: a case of nail patella syndrome. *Arthroplasty Today*, 2024.

<和文>

看護学科

- ・ 宮本佳子, 西山忠博. COVID-19 禍における看護大学生の職業意識に影響する自己効力の学年間比較. *森ノ宮医療大学紀要* 2024; 18: 1-11.
- ・ 木村清子, 師岡友紀. 日本に在留する外国人の受療行動における課題に関する文献レビュー. *武庫川女子大学看護学ジャーナル* 2024; 9: 4-13.
- ・ 岩佐由美. 訪問看護ステーションにおける神経難病患者的訪問実績と今後の受け入れ可否および看護上の課題. *日本難病看護学会誌* 2023; 28(3): 73-80.
- ・ 岩佐由美. 地域包括ケアシステムにおけるパーキンソン病患者の訪問看護ケア時間. *森ノ宮医療大学紀要* 2023; 17: 87-89.
- ・ 川添英利子, 酒井英樹. 介護老人福祉施設における食事支援に関する介護者の職種による認識の比較. *日本介護福祉学会誌* 2023; 30(1): 18-30.

理学療法学科

- ・ 角田晃啓, 福田歩未, 工藤慎太郎. 大阪市建築現場作業員における熱中症認識と予防の実態調査. *森ノ宮医療大学紀要* 2024; 18: 13-23.

作業療法学科

- ・ 由利祿巳, 辻陽子, 永井栄一, 橋本弘子. 足指ダンスが地域在住高齢者のバランス機能に与える即時効果. *保健医療学雑誌* 2023;14(2): 108-113.
- ・ 由利祿巳, 兼田敏克, 東泰弘, 由利拓真, 田中歩. 地域在住高齢者を対象とした「買い物工程分析表」の開発—内容妥当性の検討—. *日本老年療法学会誌* 2023; 2: 1-3.
- ・ 鍵野将平, 田中寛之, 小川泰弘, 永田優馬, 石丸大貴. Adelaide Driving Self-Efficacy Scale (ADSES)の日本語版尺度開発(尺度翻訳の検証). *日本安全運転医療学会誌* 2023; 3(1): 59-64.

臨床検査学科

- ・朝倉智仁, 網野悟, 川畑浩久. 徒手整復に難渋した肘内障の2例. 日本柔道整復接骨医学会誌 2023; 32(1): 23-28.
- ・小宮山恭弘, 脇英彦, 竹岡啓子. 超音波減衰法ATI (Attenuation imaging) による未病患者的の肝臓スクリーニング意義. 日本未病学会雑誌 2023; 29(1): 16-20.
- ・田路英作, 伊藤仁, 阿部仁, 今枝義博, 小松京子, 佐々木伸也, 澁木康雄, 姫路由香里, 三宅真司, 山城篤, 若狭朋子. コロナ禍における細胞診業務への影響に関するアンケート調査. 日本臨床細胞学会雑誌 2023; 62(5):227-236.
- ・関根将. 教員・学生それぞれの立場から見た寄生虫学に対する意識. 臨床検査学教育誌 2024; 16(1): 6-15.

鍼灸学科

- ・小田啓之, 西脇雅人, 黒部一道, 黄忠, 青木範一, 荻田太. 高強度間欠的運動トレーニングが30秒程度で疲労困憊に至る超最大運動時の代謝・循環指標および運動持続時間に及ぼす影響. 体力科学 2023; 72(2): 189-198.
- ・熊野弘子. 道三流の七表八裏九道脈と対脈—現代と比較して. 大形徹, 武田時昌, 平岡隆二, 高井たかね編. 京都大学人文科学研究所共同研究報告 東アジア伝統医療文化の多角的考察. 臨川書店 2024; 307-326.

助産学専攻科

- ・三宅知里, 浅野浩子, 本間裕子. AYA世代でがんと診断を受けた女性の子どもの産み育てる過程と選択. 日本生殖看護学会誌 2023; 20(1): 5-15.

大学院

- ・富田哲也, 荒西利彦, 萩森恒平. 日本人の強直性脊椎炎患者とX線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎患者の臨床的特徴,生活の質,治療パターン. 日本脊椎関節炎学会誌 2023; 10(1): 23-30.

⑨競争的研究資金獲得状況（文部科学省科学研究費助成事業-科研費-）

<新規>

- ・基盤研究(C) 澤田 優子「ハイリスク出生コホートを活用した持続可能な子育て支援プログラムの開発評価」
- ・基盤研究(C) 井上 さや子「精神科看護師の情動コンピテンスの解明と精神看護実践用評価尺度の開発」
- ・基盤研究(C) 兼田 敏克「要支援者自身がIADL能力の程度と変化を捉える評価尺度の開発」
- ・基盤研究(C) 山本 浩一「がん治療関連倦怠感発症におけるヒスタミン・オレキシン神経系の役割解明」
- ・若手研究 信江 彩加「生体内の超高解像度イメージングによるアキレス腱ツイスト構造の分類と障害リスク分析」
- ・挑戦的研究(萌芽) 小林 彩香「形態検査学教育～熟練者がもつ「目」の暗黙知を知覚心理学から解明する」
- ・ひらめき☆ときめきサイエンス 森 誠司「がんとはどんな病気？がん細胞の中で起きていることをみてみよう！」
- ・ひらめき☆ときめきサイエンス 辻 義弘「じん臓すごいぜ！人工腎臓で学ぶ腎臓の働きとおしこの作り方」

<継続>

- ・基盤研究(C) 布江田 友理「ウェアラブルデバイスによる拡張現実と画像処理技術を用いた実技技能評価ツールの構築」
- ・基盤研究(C) 大川 祐世「鍼技法の診療ガイドラインは実用可能か？ランダム化比較試験による検証」
- ・基盤研究(C) 中村 めぐみ「高齢関節リウマチ患者の運動処方時アクティブゴール設定アプローチの構築と効果の検証」
- ・基盤研究(C) 谷口 俊恵「薬物依存症者の回復における家族の役割と新しい「家族観」形成にかんする研究」
- ・基盤研究(C) 今井 信也「水晶体被ばく測定機能を備えた軽量高減弱な次世代型放射線防護メガネの開発」
- ・基盤研究(C) 大西 英雄「非密封放射性線源の取り扱いに関する体感型 VR 学習支援システムの開発と脳科学的評価」
- ・基盤研究(C) 関根 将「臨床検査技師養成のための e-learning を用いた寄生虫学教育プログラムの開発」
- ・基盤研究(C) 松崎 伸介「糖尿病における小胞体ストレス応答とSUMO 化」
- ・基盤研究(C) 外村 昌子「感染予防対策と ICT を活用した介護予防プログラムの開発」
- ・基盤研究(C) 矢野 ゆう子「婦人科がん術後患者のリンパ浮腫自己アセスメントが受診行動に与える影響」
- ・基盤研究(C) 由利 禄巳「日本版リエイブルメントモデル」の構築に向けた IADL 障害評価表の開発研究」
- ・基盤研究(C) 中原 英博「鍼刺激が運動時呼吸循環応答及び運動パフォーマンスに及ぼす短期

的・長期的効果の検証」

- ・基盤研究(C) 中沢 一雄「位相シンギュラリティに基づく心房細動のダイナミクス変容とロバスト性に関する研究」
- ・基盤研究(C) 増山 祥子「がん緩和ケアとしての鍼の応用可能性：歴史的対照群との比較およびナラティブの評価」 (延長)
- ・基盤研究(C) 山下 仁「非薬物療法の効果量推定を阻害する対照群の異質性に関するシステマティック・レビュー」 (延長)
- ・基盤研究(C) 久木元 由紀子「医療系学生に対する終末期ケア多職種連携教育プログラム開発と効果」
- ・基盤研究(C) 中谷 謙「視覚探索と視覚入力認知能力におよぼす影響の検討」
- ・基盤研究(C) 稲田 慎「多階層3次元心臓モデルを用いた不整脈誘発性・持続性の評価に関するプログラムの開発と検証」 (延長)
- ・基盤研究(C) 武 ユカリ「訪問看護における暴力防止のためのe-learningによる教育プログラム開発」 (延長)
- ・基盤研究(C) 齋藤 雅子「JNCASTを基に開発した「不妊治療後母子相互作用促進プログラム」の有用性検証」 (再々延長)
- ・基盤研究(C) 谷口 俊恵「薬物依存症者の家族の「言いづらさ」にかんする研究」 (再々延長)
- ・若手研究 垣本 晃宏「放射性医薬品投与VRシステムにおける緊張感と学習効果の関連性評価」
- ・若手研究 宮下 敏紀「慣性センサーによる高齢者の歩行中の同時収縮の解析手法の開発」
- ・若手研究 堤 真大「疎性結合組織から考える股関節の運動療法革新に向けた解剖学的基盤研究」
- ・若手研究 国宗 翔「複数の障害物回避における視覚運動制御に影響する歩行環境および身体要因の検討」
- ・若手研究 田丸 佳希「MCI高齢者の早期発見を目的とした新たなスクリーニング評価法の有効性の検討」
- ・若手研究 仲本 正美「VR を用いた座位での選択反応リーチ課題が高齢者の歩行時の足関節機能に及ぼす影響」
- ・若手研究 辻 義弘「造血能向上を図り慢性腎臓病患者の機能性鉄欠乏の改善に効果的な運動プログラムの開発」
- ・若手研究 東 泰弘「高次脳機能障害患者のトイレ動作尺度の開発とトイレ動作に影響を与える因子の解明」
- ・若手研究 小川 泰弘「統合失調症における病識の背景要因の解明および要因に基づく新しい治療戦略の構築」 (延長)
- ・若手研究 中西 一「パーキンソン病患者の食事、歯磨き時の視線分析～動作が行いやすい視覚環境の提案～」 (再延長)
- ・若手研究 林 真太郎「高齢者の転倒予防自己効力感と身体能力の自己認識からみるリハ介入の工夫」 (延長)
- ・若手研究 信江 彩加「ヒト全身反応時間を決定する中枢・末梢神経系の可塑性の解明」 (延長)

- ・若手研究 木内 隆裕「片側上肢の運動がもたらす反対側上肢への運動プライミング」(延長)
- ・若手研究 澤田 優子「ハイリスク出生コホートに基づく当事者主体の発達支援プログラムの開発評価」(延長)
- ・研究活動スタート支援 山畑 飛鳥「VRを用いた診療放射線技師養成教育におけるロールプレイ学習に関する検証」(再延長)
- ・研究活動スタート支援 下岡 ちえ「基礎看護学教育における患者安全の基盤となるリスクセンスの検討」
- ・国際共同研究強化 松崎 伸介「痴呆性疾患におけるゴルジ体制御因子 SCYL1 の意義の解明」(再々延長)
- ・挑戦的研究(萌芽) 山本 浩一「胸部単純エックス線写真からの骨粗鬆症判定システムの構築とその応用」(延長)

⑩ 令和5年度連携協定

令和5年 8月 4日 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター … 相互連携

令和5年 10月 16日 独立行政法人 労働者健康安全機構 大阪労災病院 … 相互連携

⑪ 社会貢献事業

- ・市民公開講座

日時	テーマ	講演	タイトル	参加人数
6月29日(木) 13:00~15:00	コロナ禍を振り返り、これからを考える	基調講演	COVID-19 これまでとこれから	167名
		講演Ⅰ	コロナ禍の体験から、今、改めて大切にしたいこと	
		講演Ⅱ	COVID-19対策業務から見えてきたこと～日々の健康管理と人とのつながり～	
10月26日(木) 14:00~16:00	口から元気になろう!～話す・食べるから健康寿命を「伸ばす」～	基調講演	「話す」「(安全に)食べる」について考える	148名
		講演Ⅰ	おいしく「かむ」を解きほぐす	
		講演Ⅱ	食事をスムーズに行う工夫～障がい者や認知症高齢者を中心に～	
		講演Ⅲ	食事は姿勢から!姿勢を正しておいしく食べよう!	

【大阪ペイクリニック】

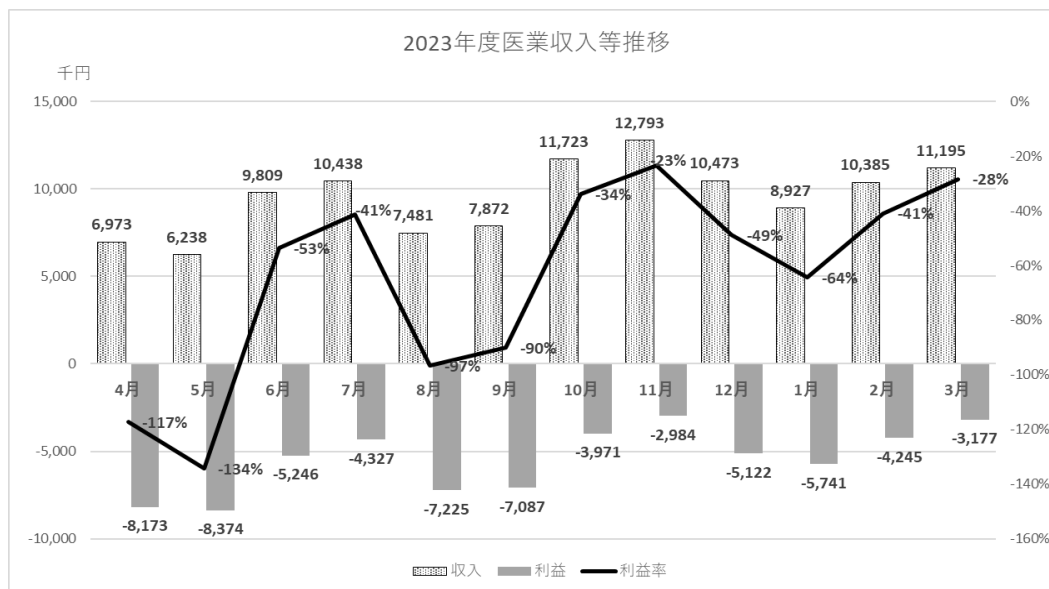
2023年度は理学療法士の増員、整形外科の診療日増、再生医療導入による収益の安定化と、患者様のご要望に応じた診療時間変更、SNS等を活用した情報発信の強化など患者様の利便性が向上する施策を実施した。また学生実習の受け入れや学生に対する集団接種の実施、地域に向けた医療知識等の情報発信を強化し、学生や地域に貢献する取り組みを積極的に行った。

(1) 実績報告

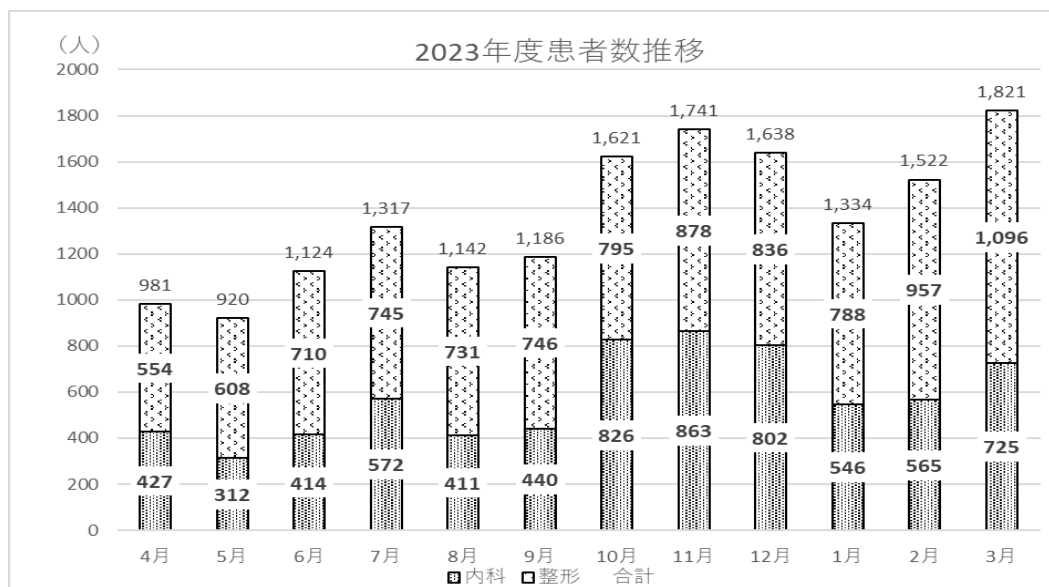
①実績

- ・ 来院総数16,347名
- ・ 総収入114,306千円
- ・ 総支出179,978千円
- ・ 収支差額▲65,672千円

②医業収入等推移



③患者数推移



(2) 施設基準等

- ・運動器リハビリテーション (I)
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料 (III)
- ・ニコチン依存症管理料
- ・二次性骨折予防継続管理料3

(3) 指定機関等

- ・保健医療指定機関
- ・診療・検査医療機関準A型 (発熱患者)
- ・難病特疾病医療機関
- ・再生医療等提供機関
- ・労災医療指定機関
- ・生活保護法等による指定医療機関

(4) 連携病院

- ・大阪急性期・総合医療センター
- ・大阪国際がんセンター
- ・日本生命病院
- ・大阪みなと中央病院
- ・南大阪病院大阪
- ・グローバル整形外科病院
- ・南港病院
- ・多根総合病院
- ・JHCO大阪病院

(5) 本学との連携実績

- ・学生実習受入 (看護学科、理学療法学科)
- ・各種ワクチン接種業務 (B型肝炎、インフルエンザ等)
- ・学生実習前検査業務
- ・体調不良学生の受け入れ
- ・新入教職員健診業務

2. 森ノ宮医療学園専門学校

鍼灸学科・柔道整復学科ともに、学生の学習定着度について早期の段階から把握に努め、きめ細やかな指導やフォローによって成績向上を図った。

国家試験合格率については、個々の成績分析を行い、国家試験対策の取り組みを強化することで、両学科ともに全国平均を上回る結果となった。また、学生の満足度向上をめざし、就職支援をはじめとする様々な学生支援を行うのと合わせて、施設の改善に取り組んだ。

学生募集においては、オープンキャンパス等の来校者数は2022年度を上回り、2024年度入試の志願者数は155名と前年から回復した。

(1) 実施事業の概要

2023年度までの5ヵ年計画である第2期中期経営計画の基本目標として「関西圏トップの実現」を掲げ、最終年度となる2023年度については、以下の事業を展開した。

1) 教育事業の概要

① 在学生および卒業生への教育活動およびサポート活動

【鍼灸学科】

- ・4月に入学前課題のチェックテストを実施し、それに基づき5月より面談を実施した。
- ・ゼミについて、実技ゼミやとくゼミは対面にて実施した。学習関連ゼミは例年通り動画配信にて行った。2021年度に比べ、ゼミなどもコロナ禍前の状態に戻すことができ学校生活の充実を図った。
- ・学生の学習に対する悩みなどを早期に把握するために全学生に対し、年に2回以上の面談を実施した。
- ・1年次より定期的、計画的に診断テストや模擬試験を実施することにより、早期に現状の把握を行っている。これにより、学習状況に問題のあると思われる学生に対してきめ細やかな対策を立てることができ、個々の学生はもちろん、全体的な成績の向上がみられた。
- ・1年次からの定期テスト等の各種試験や面談の結果などを一覧で確認することができる学生カルテを作成し、2023年度も継続して実施し、国家試験に向けて弱点克服の一助とした。
- ・従来から行っている鍼灸受療体験も引き続き継続している。また入学前に鍼灸を経験することにより職業理解を深めるためにみどりの風鍼灸院での入学決定者を対象に入学前受療体験を実施している。
- ・3年生の成績不良者に対して週3日間の特別対策授業・Teamsを活用した課題を課した。当初は卒業が難しい学力の学生が多かったが、学力向上がみられた。

【柔道整復学科】

- ・2022年度入学生より新カリキュラムとなった。新カリキュラムに伴い、科目および内容の見直しをおこなった。
- ・附属接骨院開業に向けた準備を開始した。
- ・国家試験対策として課題ドリル・診断テスト・模擬試験を行った。
- ・救急救命法を習得するために日本赤十字の救急法講習を実施した。
- ・夏季特別講座を対面にて実施した。1年生は身体の基本を知る解剖学（骨学）および実技の復習・模擬試験、2年生は実技・模擬試験について、3年生は実技・解剖学（骨・筋）・模擬試験について実施した。
- ・欠席者への早期連絡、成績不振者の早期面談・指導を実施し、出来るだけ早い段階で当該学生に対してフォローを行うようにした。
- ・解剖学・生理学・柔道整復総論などのゼミ動画の配信を行った。
- ・過去の成績データ（学科全体）から、学生個々の成績（現状）を分析するデータを作成し、個別指導に使用した。

② 国家試験対策

【鍼灸学科】

- ・2022年度よりも少し合格率が下がった。年度当初に成績不良であった学生も卒業するまでの学力には到達できたが、国家試験に合格するまでには到達できなかったため、2024年度は早い段階から対策を取り入りたい。
- ・3年生の成績不振者を対象とした特別強化授業を実施した。2023年度は前期・中期・後期に週3回実施した。また、国家試験直前の2週間は、毎日3時間実施した。
- ・国家試験不合格者へのサポートとして実施している森ノ宮塾を動画配信に切り替えた。聴講制度を利用しやすくするよう費用を下げるなどして、聴講への促しを行った。

【柔道整復学科】

- ・2020年度より本格的に1年次からの成績分析を実施するようになったため、2023年度には過去3年との比較が可能になった。2023年度の国家試験合格率は全国平均を上回る結果となり、国家試験対策の一定の効果が得られた。但し、卒業率は80%であったため次年度以降は1年次から計画的な取組を行い、卒業率・合格率とも上昇させたい。
- ・各学年において、前期・中期・後期と診断テストを実施した。また、夏休み前と春休み前に1・2年生に模擬試験を実施し、当該学年での学習状況の把握を行った。
- ・柔道整復学校協会の模擬試験を実施した。自校作成の問題だけでなく視点の違う問題を解いていくことで、国家試験合格に向けての幅の広い問題対応力が身に付いた。
- ・国家試験不合格者へのサポートとして実施している森ノ宮塾を動画配信に切り替えた。聴講制度を利用しやすくするよう費用を下げるなどして、聴講への促しを行った。聴講生の中からも合格者が多く出た。

③ 社会貢献

【鍼灸学科】

・例年は卒業生を対象とした森ノ宮鍼灸セミナー「臨活（「臨」床に「活」用できるセミナー）」を行っている。

【柔道整復学科】

・森ノ宮柔道杯を開催し、大阪府立高校の合同試合を行った。

④ 教員研修

【鍼灸学科】

・東洋療法学校協会の教員研修会に参加した。また、教員が希望する研修に参加するようにした。

【柔道整復学科】

・全国柔道整復学校協会の教員研修会に参加した。また、各団体が実施する研修会の周知を促し、参加の機会を確保した。

（2）事務関係事業

専門学校事務組織においては、昨年度に引き続き業務改善および効率化について各部署で取り組んだ結果、以下の主要事業を行った。

【教育支援部】

・一般社団法人柔道整復教育評価機構による第三者評価を受審し、全ての評価基準を満たしているとの評価を頂いた。

・「アロマコーディネーター資格取得講座」については、春季講座、秋季講座、計18名が受講した。また、森ノ宮医療大学助産学専攻科の必修科目としての開講は例年通り開講した。

・NESTA パーソナルトレーナー資格養成講座を開催し、10名（定員 20 名）が受講した。

・連携協定を締結している大阪社体スポーツ専門学校の医療特修コースの学生4名がダブルスクール入学審査を受け、2023年4月から鍼灸学科夜間コース1名が本校にAT特修コース生として入学した。

【調査課】

・京都治療院の運営及び実習施設として機能していくためのフォローを行った。

・スポーツ実習現場確保とノエビアスタジアム神戸内で学校名を掲出するためにスポンサー契約をすすめた。

・第21回近江杯柔道大会においてを教務課と協働し、大会時の救護対応を行うほか、副教材として活用できるよう動画記録を行う。今回は、初日10名、2日目3名の学生が参加し、教員の管理下のもと学生によるアイシング・テーピング等の現場実習を行えた。

・昨年度コムシ跡地の購入にかかる不動産所得税減免の対応に続き、今年度は固定資産税にかかる土地非課税適用申告の対応にあたった。

【学術部】

- ・個人学術研究補助として、学会参加費用および、学会年会費を支給した。2023年度の発表者は1名のみであったが、2024年度以降の研究発表を目指して研究を行っている教員へ、研究に必要な費用の補助を行った。
- ・東洋療法学校協会学術大会で学生の研究を発表するため、倫理委員会においては、2016年より研究倫理審査を行っている。2023年度は3グループで研究発表が行われた。
- ・教育の質の向上を目的として、ICT教育の推進を行っており、そのために必要な費用（機材および教材）について提供を行った。

【図書課】

- ・電子書籍を導入し学外から書籍の閲覧が可能となった。まずは試験的に8冊を購入した。
- ・利用者の利便性向上を目的としてロッカーを新たに購入し、設置場所も3階の学生ホールから図書室内に移設した。
- ・年度の上半期および下半期に教職員を対象に図書購入リクエストを実施した。
- ・図書室運営委員会を2023年8月9日（水）と2023年2月7日（木）に開催し、購入図書を決定したほか、今後の図書室の運営、活動について検討を行った。
- ・図書室運営委員会での決定を受けて新規図書の購入を行った。
- ・図書室利用者からの図書購入リクエストを随時受け付け、月毎に図書委員会の審査を経て承認された書籍を購入した。
- ・校友会から図書購入費として20万円の補助を受け、図書購入を行った。
- ・図書室会議を月に一度開催し、新規図書購入リストの作成や図書室運営の改善について検討を行い、随時実施した。
- ・図書室書架の書籍について精査を行い、不要な図書については順次廃棄を行った。
- ・蔵書点検も滞りなく行われた。

【学務課】

- ・2023年度の学生健康診断については外部医療機関に出張健康診断を依頼の上、6月9日に実施した。当日に欠席した学生の健康診断は6月中旬に個別に行い、最終的な受診率は97.3%であった。
- ・教育訓練給付制度利用者に対し、申請書類の発行を行った。
- ・日本学生支援機構奨学金を始めとする奨学金を利用する学生への支援を行った。
- ・5月からの約2カ月間、「春の就職フェア」として、ご協力いただいた求人先365院の求人情報を本校舎1階に掲示した。また冊子化を配布した。
- ・10月8日に毎年恒例の就職相談会を開催した。参加治療院53院、卒業生を含む参加学生46名であった。
- ・卒業後半年を経過した卒業生に郵送にて進路調査を行い、2022年度卒業生各人の現状を確認することができた。
- ・就職を希望する学生への就職支援を行った。また、治療院等の就職先からの求人票を受付、学生に公開した。
- ・毎年実施している次年度入学予定者を対象とした入学前通信教育については73名の利用があった。そのうち早期合格者特典として履修した入学予定者は60名であった。
- ・2024年1月21日に2024年度入学予定者を対象としたプレスクールを開催した。両学科併せて69名の参加があり、アンケート結果では満足度94%であった。
- ・はり師きゅう師国家試験および柔道整復師国家試験の出願のサポートを行った。

- ・みどりの風保育園の利用数については、恒常的に利用する学生と、スポットで利用する学生が現れたため、2022年度に比べると増加した。
- ・学生生活満足度調査を実施した。
- ・2022年度自己点検・自己評価報告書を作成し Web ページにて学生向けに公表した。また、自己点検・自己評価報告書を基に学校関係者評価を行った。
- ・求人情報検索システム「けんさくくん」の改修を行い、特に学生による求人閲覧の利便性が向上した。

【管理課】

- ・旧コムシス跡地について、グラウンド整地の実施およびフェンスを設置した。
- ・3階学生ホールのコピー機2台を更新し、スマートフォンやタブレットからの印刷も対応可能となった。
- ・アネックス校舎4階ホールのプロジェクターを更新した（学生会寄贈として）。
- ・505教室のスクリーンを更新した（学生会寄贈として）。
- ・本校舎屋上非常電源設備の蓄電池触媒栓を更新した。
- ・2階保健室内に非常放送用スピーカーを設置した。
- ・緑橋校舎1階自動ドアのセンサー交換、電源スイッチの増設を実施した。
- ・緑橋校舎2階に防犯カメラを1台増設した。
- ・3階図書室の照明器具のLED化を実施した。
- ・605教室、アネックス校舎校友会鍼灸室、運動療法センターの照明器具のLED化を実施した。
- ・7階講堂の空調機の修繕を実施した。
- ・緑橋校舎3階スタッフルームと1階旧MRI室の空調機の修繕を実施した。
- ・5階女子トイレの換気扇の更新を実施した。
- ・東成消防署による緑橋校舎への消防設備立ち入り検査が実施されたが、指摘事項は特に無かった。
- ・本校舎、緑橋校舎の消防訓練を実施した。
- ・東成区役所主催の「東成区災害時協力企業等対象研修会」「防災講習会」に参加した。
- ・アネックス校舎柔道場に保管の備蓄水（30ケース）の入れ替えを実施した。
- ・本校舎、緑橋校舎の年次停電点検を実施した。
- ・本校舎地下倉庫内の機密書類を廃棄した。
- ・事務局での学生・教職員向けの冷凍食品販売について、1,436食の売上げであった（昨年度825食）。
- ・キッチンカーによる飲食物の販売を開始した。
- ・実施要項案の作成や特別協賛の依頼など文化祭開催のサポートを行った。
- ・新規業者(株)サンケイビルマネジメントによる清掃・施設管理・管理補助業務が開始した。
- ・毎月1回、緑橋校舎各フロアの担当者が出席する定例会議をスタートさせた。
- ・緑橋校舎2階テナント「一般社団法人POE」児童発達支援・放課後等デイサービスの開設、運営にあたり協力を行った。

【入学広報課】

- ・学生募集に関するイベントとして、以下を実施した。

オープンキャンパス、学校説明会、AO 入試対策講座、授業見学会、個別相談会など

- ・学生募集ツールとして以下の広報誌を作成した。

学校案内、入試要項一式、高校生／社会人向けリーフレット、イベント告知DM、女性特集リーフレット、鍼灸&柔整分野リーフレット、イベントガイド、他府県出身者特集リーフレットなど

- ・WEB サイト運営として、ページ更新／コンテンツ改定、新規ページ制作（夜間ページ、医療×スポーツページ）、新着情報の発信、動画制作などを行った。また、検索サイトで上位表示されるための SEO 対策を常時講じた。

- ・SNS（インスタ、Facebook、X、LINE）から情報の発信を実施した。
- ・リスティングやリターゲティング、SNS での WEB 広告を展開した。
- ・高校訪問、高校へのガイダンス、出張講義ガイダンスを実施した。
- ・進学媒体（進学情報誌、進学サイト）へ広告出稿を行った。

※事業成果データ

- ・資料請求者数 5,995件(昨年比 99.8%)
- ・イベント来校者数（のべ）：487名（昨年比 105.4%）
- ・イベント来校者数（実数）：318名（昨年比 101.6%）
- ・志願者数 155 名（昨年比 114.8%）

【総務経理課】

- ・2024年度から入試制度がWEB出願になるため、2024年度スタートできるよう準備完了した。
- ・定期的に規定内容を確認して整合性がとれていない箇所のチェックを行った。
- ・特殊な事情はあるが、2023年度末に1名未納者が発生した。
- ・2024年度予算は前年実績に基づいて計上し、さらに当初予算より2%の削減を実施した。

(3) 鍼灸院・接骨院事業

【みどりの風鍼灸院】

- ・2023年度より新型コロナから回復したため4月より通常の臨床実習を行うことができた。1年次より早期に見学実習を実施することができるようになった。3年次に行われるシミュレーション実習と、みどりの風鍼灸院での臨床実習のすみ分けができるようになり、みどりの風鍼灸院においては、実際の患者さんに対して、施術補助が行われている。
- ・臨床実習での患者確保が必要であるが、1日平均15名前後となり、実習を行うことに問題がない状況となった。
- ・2023年度より新たに実習助手を置くことになり、教員は患者への施術に今までよりも集中してできる環境となった。
- ・2021年度より実施している保険診療も徐々に増加しており、往診も実施できている。
- ・2023年度より教務の教員が週に1回、鍼灸院で施術を行うことになり、教員の臨床力強化だけでなく、授業と実習の充実が図れるようになった。

	一般	保険	小児	学生	卒業生	教職員	往診	合計	施術日数	日平均
4月	146	39	8	21	51	13	11	289	20	14.5
5月	157	31	9	41	45	9	12	304	20	15.2
6月	147	39	11	47	56	8	13	321	22	14.6
7月	141	35	8	46	47	8	8	293	20	14.7
8月	128	28	8	39	49	10	8	270	19	14.2
9月	146	38	8	69	61	13	12	347	20	17.4
10月	143	31	3	73	59	14	12	335	21	16.0
11月	153	30	7	65	54	7	12	328	20	16.4
12月	158	41	12	68	49	10	11	349	20	17.5
1月	133	37	10	69	48	8	11	316	18	17.6
2月	134	39	8	71	51	7	10	320	19	16.8
3月	121	48	17	57	43	10	11	307	20	15.4
総数	1707	436	109	666	613	117	131	3779		
割合	45.2%	11.5%	2.9%	17.6%	16.2%	3.1%	3.5%			15.8

【みどりの風接骨院】

- ・2023年度より開院した。また、臨床実習を実施し、学生に見学や施術補助を行わせた。
- ・保険診療以外に自費診療のメニューを取り入れ、昨今の接骨院の運営形態に近い運営を行っている。
- ・最新の物理療法機器を導入し、より良い施術を行える環境を整えた。

(4) 事業成果の概要

①在籍学生数

(単位：人)

2024年 4月1日現在	1年			2年			3年			合計			
	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	
鍼灸学科	昼	75	0	0	53	1	1	58	2	1	186	3	2
	夜	25	1	1	9	1	0	13	2	2	47	4	3
柔道整復 学科	昼	29	0	0	25	1	1	26	0	0	80	1	1
	夜	15	0	0	12	1	1	22	1	0	49	2	1
合計		144	1	1	99	4	3	119	5	3	362	10	7

* 留年および休学は在籍者数の内数

(単位：人)

2023年 4月1日現在	1年			2年			3年			合計			
	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	
鍼灸学 科	昼	58	2	0	64	3	3	65	0	1	187	5	4
	夜	12	0	0	13	1	1	15	2	2	40	3	3
柔道整 復学科	昼	33	1	0	33	0	0	37	1	0	103	2	0
	夜	11	0	0	23	2	1	15	0	0	49	2	1
合計		114	3	0	133	6	5	132	3	3	379	12	8

* 留年および休学は在籍者数の内数

(単位：人)

2022年 4月1日現在	1年			2年			3年			合計			
	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	
鍼灸学 科	昼	69	1	0	71	1	1	74	2	1	214	4	2
	夜	15	2	0	15	2	1	19	2	2	49	6	3
柔道整 復学科	昼	38	1	0	39	0	0	35	2	0	112	3	0
	夜	23	1	0	19	1	1	11	0	0	53	2	1
合計		145	5	0	144	4	3	139	6	3	428	15	6

* 留年および休学は在籍者数の内数

②年度別退学者数

(単位：人)

年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
退学者数	26	25	27	21	36
退学者比率	6.0%	5.8%	6.1%	4.9%	9.5%
在学生数	430	432	442	427	379

③志願者数

(単位:人)

入試実施年度		2019	2020	2021	2022	2023
学科	コース	志願者	志願者	志願者	志願者	志願者
鍼灸	午前コース	46	55	39	40	44
	昼間コース	39	42	38	31	39
	夜間コース	27	25	16	17	26
柔整	選択コース	19	14	24	19	20
	昼間コース	21	29	17	14	10
	夜間コース	24	22	29	14	16
合計		176	187	163	135	155

④国家試験合格率

<2023 年度>

はり師きゅう師国家試験 (第 49 期)

国家試験成績		2023 年度 (第 32 回) 2024 年 2 月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	はり師	67	61	91.0%
	きゅう師	67	59	88.1%
全現役受験者	はり師	3,213	2,756	85.8%
	きゅう師	3,213	2,770	86.2%
本校全受験者	はり師	105	63	60.0%
	きゅう師	101	59	58.4%
全受験者	はり師	4,176	2,892	69.3%
	きゅう師	4,111	2,887	70.2%

柔道整復師国家試験 (第 22 期)

国家試験成績		2023 年度 (第 32 回) 2024 年 3 月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	柔道整復師	40	34	85.0%
全現役受験者	柔道整復師	3,183	2,675	84.0%
本校全受験者	柔道整復師	91	46	50.5%
全受験者	柔道整復師	5,027	3,337	66.4%

<2022 年度>

はり師きゅう師国家試験（第 48 期）

国家試験成績		2022 年度（第 31 回）2023 年 2 月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	はり師	84	78	92.9%
	きゅう師	84	79	94.0%
全現役受験者	はり師	3,271	2,797	85.5%
	きゅう師	3,271	2,809	85.9%
本校全受験者	はり師	130	84	64.6%
	きゅう師	127	86	67.7%
全受験者	はり師	4,084	2,877	70.4%
	きゅう師	4,010	2,875	71.7%

柔道整復師国家試験（第 21 期）

国家試験成績		2022 年度（第 31 回）2023 年 3 月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	柔道整復師	41	14	34.1%
全現役受験者	柔道整復師	3,201	2,092	65.4%
本校全受験者	柔道整復師	74	14	18.9%
全受験者	柔道整復師	4,521	2,244	49.6%

⑤求人状況

・ 求人倍率

	鍼灸学科 (はり師・きゅう師)	柔道整復学科 (柔道整復師)
求人数 (人)	4,277	4,289
求職者数 (人)	24	6
求人倍率 (倍)	178.2	714.8

3. 森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール

森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクールが目指す「日本語・介護4年一貫教育」は着実に成果を上げているものの、多様な国籍の留学生を私生活も含めて管理・支援する事は予想以上に困難であり、教職員の負担が甚だしいだけでなく、収支的にもなかなか黒字化が見えない状況が続いている。

上記から、2024年4月から休校し、在籍学生は大阪キリスト教短期大学へ転籍した。

【教務関係 日本語学科】

① 授業

- ・非漢字圏の学生を対象としているため、1日4 コマ授業のうち 1 コマは漢字の授業を行い、漢字への苦手意識の克服と定着を図った。
- ・年4回の定期試験に加え、日本語能力試験（JLPT）試験対策授業を定期的に取り入れ、学修の定着を図った。
- ・日々、アプリを使った自主学習等、宿題等の課題を与え、学修の定着を図った。

② 成績

- ・年 4 回の定期試験を実施
- ・定期試験不合格者については再試験を実施し、理解度の定着を図った。

③ 出席状況

- ・各授業開始時に出席を確認し、遅刻・早退がないか出席管理を行った。授業開始時刻を過ぎても登校していない学生については、すぐに電話連絡を入れ出席管理を徹底した。
- ・欠席する際は、必ず事前に本人が電話連絡するよう指導し、無断欠席をゼロにできた。
- ・Zoom で授業に参加している学生にも欠席する場合は授業開始 10 分前までに担任に欠席のメールを入れるよう指導した。

④ 面談

- ・2～3か月に一度対面で個別面談を実施し、問題を抱えている学生については都度対処した。
- ・個々に問題を抱えている学生については、担任と学科長や、事務課の職員と複数名で個別面談を行い、学費や、学習、アルバイト等の問題に早期に対応するよう取り組んだ。

⑤ 授業アンケート

- ・転籍に関するアンケートの実施が必要となり、当該年度の授業アンケートは実施しなかった。

⑥日本語能力試験（JLPT） 対策

JLPTに特化したテキストを利用し、通常授業より JLPT 対策を取り入れた。入国時期を問わず各学生の日本語レベルでクラスを分け、試験 3 週間前には JLPT 対策週間を設け、試験問題に慣れるよう繰り返し問題を解かせた。

試験の 2 カ月前から JLPT の模擬試験を 4 回実施し、模試の成績が悪い学生には適宜面談を行った。また全学生に宿題として漢字・語彙・文法の課題をモノグサ（アプリ）で与え、全問正解するまで問題を解かせ定着を図った。

⑦教員研修

・教員の勉強会を実施し、各科目や、Zoom 授業の指導法、学生の成績等の共有を行った。

2023年度 7 月 JLPT結果

2023年度 第1回 日本語能力試験（2023年7月2日実施）				
JLPT	受験者数（名）	合格者数（名）	合格率	国内合格率
N2	2	1	50.0%	35.0%
N3	36	31	86.1%	42.4%
N4	9	7	77.8%	45.9%

2023年度 12 月 JLPT結果

2023年度 第2回 日本語能力試験（2024年12月3日実施）				
JLPT	受験者数（名）	合格者数（名）	合格率	国内合格率
N2	29	16	55.2%	33.7%
N3	22	12	54.5%	32.0%
N4	10	5	50.0%	33.0%

【教務関係 介護福祉学科】

① 授業

- ・入学直後より各学生の個々の日本語レベル、授業の理解度の把握に努めた。
- ・日本語能力が N3 以下、母国では勉強習慣が少なかった者、勉強方法がわからない者も多く、学習習得段階が様々であった。学習習得段階に応じた対応を行うために、クラス分けを行い、それぞれの学習の進捗や理解度に合ったクラス編成を行った。
- ・習得度の高いクラスに対しては、介護の語彙など基礎知識の理解を確認できるよう授業の工夫を行い、入学直後から授業の理解度把握を行うための小テストなどにも国家試験問題の 5 択問題で実施し設問形式に慣れさせるように努めた。また、国家試験合格に向けモチベーションの維持を課題とするように努めた。
- ・習得度の低いクラスに対しては、授業内容を理解できない場合が多く、最低限度理解しなければいけないことを中心に学習内容から重要な観点を抜き出し、その理解度を確認しながら指導を行った。また、国家試験受験・合格を目指すために日本語理解に向けた学習のモチベーションを上げていくことを課題とするように努めた。
- ・コロナ発症者、濃厚接触者に対し、ZOOM を使用したオンライン授業を実施。問題なく調に行えた。

② 出席状況

・学科の携帯電話と学生全員をラインで繋げ、欠席、遅刻時の事前連絡を徹底するようにオリエンテーションで指導を行った。一度だけのオリエンテーションで理解するという事が難しく、必要に応じて何回かに分けて行い、個人面談などにより個別のフォローを行った。

欠席が多い学生に対しては、関係する連絡先をできる限り多く把握しておくように努めるとともにアルバイト先、経費支弁者者との情報共有を行った。

③ 個人面談

・クラス担任が、入学直後と後期授業開始時の2回行った。個人面談において、入学時は、まず、個々の宗教的ニーズを聞き取り対応策の検討を行った。また、面談を通して授業内容や学習上の悩みを聞き取り、それ以外の悩みに対しては、教職員全体で共有し検討した。

④ 経費支弁者、アルバイト先と学生の状況について、できる限り情報共有を行うように努めた。

⑤ 健康管理

・感染症対策として、登校時に検温と声掛けによる体調確認を徹底した。体調不良者には、聞き取りを行い各科への受診を促した。受診前に教員より受診先に「留学生であり日本語が不十分」である事を伝え、事前に電話による問診などをサポートした。

また、健康保険証の所持の確認を目視にて行い、保険料未納者に対して、健康保険証の必要性を指導した。

⑥ その他

・不法在留者（失踪）が1名あった。

・また、月に一度、資格外活動等のアンケート調査を行い、資格外活動の状況等を把握した。特に、資格外活動許可の要件（週28時間等）が十分に理解できていない者には、個々の日本語レベルに応じた説明を行った。アンケート調査を行う際、住民税の支払い、健康保険料の支払いに関しても随時、確認を行った。

⑦ 第35回介護福祉士国家試験

受験者数（名）	合格者数（名）	合格率（％）
66	33	50

【事業成果】

在籍者数（2022年3月31日）

学科	人数
日本語科	88名
介護福祉学科	133名

退学者・除籍者数

学科	人数
日本語学科	0名
介護福祉学科	退学4名、除籍2名

4. 関連事業部門

【森ノ宮医療学園出版部】

1. 学生、卒業生への知識や情報の開示と還元

1-1 主力雑誌の継続的発刊

Tehamo7号から9号までの3号を発刊。継続的かつ予定通りの発刊を行った。『あとととき』と『鍼灸OSAKA』を合本し大幅リニューアルし3年目に至るが、主制作担当者が外部委託となっているものの雑誌の刊行を無事実施できた。広告収入を含めると2023年度のTehamoについては黒字（59,144円）となっている。

テーマ：難病への東洋医学的アプローチ/あはきのリアルワールドデータ（7号_2023.6.30発行）、『瘀血』の診かたと治療/あはきとインバウンド（8号_2023.10.31発行）、アスリートのケアと東洋医学/あはきと感染症（9号_2024.2.29発行）

視覚支援学校への定期講読案内を実施し、新たに1件の新規定期講読を獲得し、現在24校となっている。

また単冊赤字の解消として、次年度よりTehamoの発刊数を年3冊から2冊へ変更することとなった。

1-2 既刊本のブラッシュアップ

在庫僅少による増刷3種『ポケット鍼灸臨床ガイド第3版』、『柔道整復理論サブノート』『改訂増補版図解鍼灸脈診法胃の気の脈診』。

1-3 補助教材の制作

日本鍼灸師会主催の全国経絡経穴カルタ大会で使用のカルタ制作としてスタートした『経穴かるた』を制作発刊。第18回日本鍼灸師会全国大会in大阪（2023.10.21～22スターゲイトホテル）で実施された学生対抗要穴カルタ大会で使用されている。既刊本も4種の製造を実施したが、総計で黒字（61,845円）となった。

1-4 教科書等販売

専門学校学生の教科書販売も実施し、鍼灸学科691,498円（販売5,554,324円仕入4,862,826円）、柔道整復学科1,245,531円（販売5,381,435円仕入4,135,904円）の売上となった。森ノ宮医療学園のウェルランゲージスクール、介護福祉士の学生ならびに教員への販売も実施し、280,371円の売上となった。

2. 学園広報への貢献

2-1 出展・広告への参画

出展においては新型コロナウイルス感染拡大の影響も収縮しハイブリッド式や従来の現地開催のみの出展も増えてきた。出版部では検討し「第72回(公社)全日本鍼灸学会学術大会（2023.6.9～11神戸国際会議場）」、「第73回日本東洋医学会学術総会202.6.17～18_福岡国際会議場」「第18回日本鍼灸師会全国大会（2023.10.21～22スターゲイトホテル）」「第51回日本伝統鍼灸学会学術大会（2023.10.28～29広島市東区民文化センター）」へ出展参加した。

広告も日本鍼灸新報、現代鍼灸学、伝統鍼灸、メリディアン、鍼灸柔整新聞、漢方の臨床、中医臨床、経絡治療、日本小児はり学会会誌など学会誌や業界誌へ、販促の重要なツールとして引き続き参画した。

2-2 代田賞

医道の日本社より移管された「代田賞」の事務局を鍼灸情報センターと協力し運営した。5月末論文締切、9/25（代田文誌命日）授与、『Tehamo』10月号論文掲載・次回募集掲載を実施。また、広報誌の在庫が僅少になったため、増刷を実施した。

2-3 他社出版物への制作補助

日本刺絡学会より会誌『刺絡』の制作依頼があれば請負業務として出版部で制作。3号発行し、制作費も回収済み。全日本鍼灸学会認定講習用テキストの制作、形井秀一先生を中心とした制作物、医道の日本社「はじめての鍼灸」の制作も検討されている。

3. 収益事業としての継続

3-1 販売管理の徹底

正確なデータを収集するため、受発注者を絞り、入力や発送など基本的事項を見直す作業に注力していたが、作業は継続したまま、受発注をはじめとした作業のマニュアル化など、管理の段階を進めている。「収益拡大」を目標に、ハードル一つ一つを超えることを現段階では重視している。

帳票名：残高試算表(書籍別対比)

事業所名：出版部

集計期間：2023/04/01,2024/03/31(決算整理後)

勘定科目	<既刊本>	<教科書>	<Tehamo>	<バックナンバー>	<校友会>	<手数料>	<出展>	<送料収入>	<代田賞>	<委託手数料(印刷)>	<共通経費>	<合計>
[売上高]												
売上高合計	3,681,538	11,551,905	5,917,049	793,619		2,979,039	123,417	76,474		730,000	800	26,107,745
[売上原価]												
商品売上原価計	-1,139,076	9,336,015	-258,020	5,866,292								7,648,154
[当期製品製造原価]												
当期製品製造原価計	4,215,714		5,629,435	240,900						663,555		10,749,604
売上原価	3,076,638	9,336,015	5,371,415	6,107,192						663,555		18,397,758
売上総損益金額	604,900	2,215,890	545,634	-5,313,573		2,979,039	123,417	76,474		66,445	800	7,709,987
[販売管理費]												
販売管理費計	347,097		437,023	29,116	9,005		258,265	681,982	11,341			5,768,996
営業損益金額	257,803	2,215,890	108,611	-5,342,689	-9,005	2,979,039	-134,848	-605,508	-11,341	66,445	-3,847,743	1,940,991
[営業外収益]												
営業外収益合計											16,386	16,386
[営業外費用]												
雑損失	195,958			662,519								858,477
営業外費用合計	195,958			662,519								858,477
経常損益金額	61,845	2,215,890	59,144	552,793	-9,005	2,979,039	-62,798	-605,508	-11,341	66,445	-3,831,357	1,098,900
[特別利益]												
特別利益合計												
[特別損失]												
特別損失合計												
当期損益	61,845	2,215,890	59,144	552,793	-9,005	2,979,039	-62,798	-605,508	-11,341	66,445	-3,831,357	1,098,900

【京都治療院】

(1) 人員体制

常勤：柔道整復師 1 名、鍼灸師 1 名 計 2名

受付：2 名（午前 1 名、午後 1 名）

(2) 治療院業務日数

①診療日数 235日（うち 柔整部門45日、鍼灸部門5日は休診）

※柔整部門の休診日には専門学校で兼任講師を週1回（36日）含む。

診療日時 9：00～12：30（受付終了：12:00）／16：00～20：00（受付終了 19:30）

月～金（休診：土・日・祝日・他）

②休診日数 131日

(3) 広報・院外活動

<継続活動>

①トレーナー活動

（京都大学：男子・女子ラグロス部、京都精華高校：男子・女子サッカー部）

②運動部マネージャー等対象とした勉強会（ケガ予防やテーピング方法等）を毎月開催。

③治療院前でのブラックボード設置やホームページ、LINE@、Instagram、Facebookによる情報発信。

④近隣大学運動部へのアプローチ（京都大学・京都産業大学）。

⑤御所東クリニックとの医療連携。

⑥環境省参画の「熱中症予防声かけプロジェクト」の活動として、治療院前に「暑さ指数」を掲示し、通行人等へ熱中症の注意喚起を行った。

⑦自費メニューとして、慢性施術・美容・パーソナルトレーニング・アロマセラピーの実施。

⑧発達障害支援サイト「凸凹じぶんたび」に鍼灸に関するコラムを不定期掲載。

⑨臨床実習施設として、森ノ宮医療学園専門学校 柔整トレーナーコースの実習を計50回（前期：2年10回、中期：1年、2年10回、後期：1年、2年10回）実施し、施術者管理のもと、学生による問診、施術の実習を行った。

また、森ノ宮医療大学 鍼灸学科 1年生2名（1日）、4年生1名（5日間）を受け入れ、鍼灸施術、美容鍼、アロマ、接骨などの施術見学のほか、物療機器の説明と体験を通じた実習を行った。4年生は上記の実習のほか、当スタッフへ問診、施術計画構築の実習も行った。

<新規活動>

- ①臨床実習の機会を提供するため、昼間部、夜間部学生を対象に3月に臨床実習を行った。4日間で希望者11名が参加した。
- ②トレーナー活動の機会を提供するため、高校女子サッカー、大学女子ラクロスの公式試合でのトレーナー現場を確保したが、告知期間が短いものの、数名の学生が参加した。
- ③インスタやブラックボードを活用し美容鍼キャンペーン等を継続して実施。

(4) 運営状況等

2023年度の運営状況は下表のとおり、鍼灸部門は患者数売り上げに大きな変化はなかったが、柔整部門は昨年度よりも減少となった。

原因として、コロナ禍の影響により、柔整部門の主要患者層である大学部活生が減少し続けたためだが、2023年度から加入する新入生も増え、2024年度以降から回復していくと見込まれる。ただし、柔整部門においては、柔整師が2名から1名になったこと、患者数に季節的変動が大きいめ、繁忙期において柔整師1名でどの程度対応できるのか課題があるため、注視していく。

【2022年度と2023年度の患者数と施術売上比較】

「2022年度・患者数」

	4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度	計
鍼灸施術	61	59	66	66	61	69	77	79	78	76	70	72	834
接骨施術	195	191	286	235	138	202	239	229	158	87	144	154	2,258
その他	22	34	48	28	28	32	28	20	52	25	23	28	368
計	278	284	400	329	227	303	344	328	288	188	237	254	3,460

「2023年度・患者数」

	4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度	計	前年比
鍼灸施術	73	80	62	83	53	59	72	69	78	59	78	71	837	100%
接骨施術	144	159	149	165	129	166	203	112	125	94	76	120	1,642	73%
その他	26	19	14	15	26	31	42	21	20	18	26	16	274	74%
計	243	258	225	263	208	256	317	202	223	171	180	207	2,753	80%

「2022年度・売上」

	4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度	
鍼灸施術	¥232,600	¥204,550	¥253,880	¥226,630	¥187,950	¥228,650	
接骨施術	¥306,826	¥291,079	¥440,424	¥330,701	¥238,803	¥291,635	
その他	¥59,725	¥82,300	¥72,240	¥35,450	¥59,000	¥36,450	
計	¥599,151	¥577,929	¥766,544	¥592,781	¥485,753	¥556,735	
	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度	計
	¥268,120	¥265,960	¥255,590	¥277,630	¥262,166	¥258,430	¥2,922,156
	¥348,654	¥346,923	¥227,291	¥132,988	¥221,259	¥214,224	¥3,390,807
	¥54,200	¥45,270	¥109,050	¥50,479	¥23,650	¥68,950	¥696,764
	¥670,974	¥658,153	¥591,931	¥461,097	¥507,075	¥541,604	¥7,009,727

「2023年度・売上」

	4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度		
鍼灸施術数	¥232,656	¥267,590	¥205,650	¥288,455	¥169,976	¥192,073		
接骨施術数	¥193,950	¥222,955	¥210,464	¥240,208	¥189,281	¥234,693		
その他	¥96,150	¥57,150	¥57,500	¥49,450	¥88,050	¥81,550		
計	¥522,756	¥547,695	¥473,614	¥578,113	¥447,307	¥508,316		
	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度	計	前年比
	¥252,541	¥232,198	¥272,386	¥211,456	¥273,586	¥220,726	¥2,819,293	96%
	¥318,686	¥192,343	¥213,946	¥152,649	¥109,089	¥170,915	¥2,449,179	72%
	¥171,150	¥59,700	¥44,950	¥55,500	¥58,650	¥24,150	¥843,950	121%
	¥742,377	¥484,241	¥531,282	¥419,605	¥441,325	¥415,791	¥6,112,422	87%

その他はアロマ施術、慢性施術、機器貸出、トレーニング、O2、物販等

【派遣事業部】

①留学生の紹介について

2021年度生および2022年度生に対し、入国後の学生アルバイト派遣や、在校生で学費の支払いやアルバイトに困っている学生に対し、福祉施設の開拓を行い、派遣業務を行った。

②契約業務

3か月に一度、各学生の派遣に対する契約更新有無、法人と学校の情報交換等の業務を行った。

③経理業務

派遣先への請求書の作成および派遣学生への給与支払いを行った。

④業務移行

学校法人大阪キリスト教学院（現：学校法人OCC）の子会社であるバリュースタッフへ2023年7月業務の移行を行った。

Ⅲ.財務の概要

学校法人大阪キリスト教学院（現：学校法人 OCC）へウェルランゲージスクール業務の譲渡をおこなったこともあり、譲渡に関する費用 60,000 千円、学生寮の現状復帰費用 27,000 千円を清算処理した結果、経常収支差額は 58,976 千円のマイナスになった。また、施設寄付金等や資産処分差額などの特別収支を差引した結果、基本金組入前当年度収支差額は 21,511 千円のマイナスとなった。大学では新棟（葵棟）が完成した。

・2023 年度事業活動収支計算書概要

(円)

項目	2023 年度	2022 年度	2021 年度	2020 年度
教育事業活動収入	4,818,759,163	4,851,057,908	4,580,542,860	4,060,975,464
教育事業活動支出	4,849,322,042	4,516,174,065	4,109,095,560	3,916,397,631
教育活動収支差額	△30,562,879	334,883,843	471,447,300	144,577,833
教育活動外収入	32,528	26,274	28,338	25,938
教育活動外支出	28,445,703	16,666,274	15,086,306	15,473,941
経常収支差額	△58,976,054	318,243,843	456,389,332	129,129,830
特別収支差額（集計）	37,464,162	22,986,730	143,617,460	5,719,578
組入前当年度収支差額	△21,511,892	341,230,573	600,006,792	134,849,408
基本金組入額	△831,195,972	△434,625,781	△1,362,294,879	△414,754,455
当年度収支差額	△852,707,864	△93,395,208	△762,288,087	△279,905,047
前年度繰越収入差額	△3,545,281,258	△3,485,389,361	△3,187,096,753	△2,940,029,981
翌年度繰越収支差額	△4,395,193,522	△3,545,281,258	△3,485,389,361	△3,187,096,753

・正味資産の推移

(円)

	2023 年度	2022 年度	2021 年度	2020 年度
正味資産	13,689,853,440 (内現金預金総額 2,891,894,962)	13,711,365,332 (内現金預金総額 2,924,578,035)	13,370,134,759 (内現金預金総額 2,828,068,749)	12,770,127,967 (内現金預金総額 3,584,244,828)
資産増加額	△21,511,892	341,230,573	600,006,792	134,849,408

・主な財務比率

項目	2023 年度	2022 年度	2021 年度	2020 年度
経常収支差額比率	△1.2%	6.5%	9.9%	3.1%
人件費比率	49.2%	47.2%	48.3%	52.9%
教育研究経費比率	34.7%	31.6%	29.6%	31.3%
管理経費比率	16.5%	13.3%	11.7%	12.1%